



AGP カードをインストールの際には、以下の注意事項をよくお読みになり、必ずそれに従ってください。ご使用の AGP カードに“AGP 4X/8X(1.5V) ノッチ”(下図参照)がある場合、AGP カードは AGP 4X/8X (1.5V)であることを確かめてください。



注意：Intel® 845(GE/PE) / 845(E/G) / 850(E) / E7205 / 865(G/PE/P) / 875P は AGP 2X カードをサポートしていません。これでシステムが正常に起動しないことがあります。AGP 4X/8X カードを差してください。



例 1：Diamond Vipper V770 ゴールデンフィンガーは 2X/4X モード AGP スロットと互換性を有します。ジャンパー調節により AGP 2X (3.3V)と 4X (1.5V)のモード切替が可能です。このカードの工場出荷時デフォルトは 2X (3.3V)です。GA-8IPE1000 シリーズ(または AGP 4X/8X のみ) マザーボードは、ジャンパーを 4X (1.5V) モードに切り替えずに取り付けると、正しく作動しない場合があります。

例 2：“Power Color”というグラフィックスカードメーカー製 ATi Rage 128 Pro グラフィックスカードおよび SiS 305 カードの数種はゴールデンフィンガーが 2X(3.3V)/4X(1.5V)モード AGP スロットと互換ですが、サポートするのは 2X (3.3V)のみです。GA-8IPE1000 シリーズ(または AGP 4X/8X のみ) マザーボードは、このカードをインストールすると正しく作動しない場合があります。

注：Gigabyte's AG32S(G)グラフィックスカードは ATi Rage 128 Pro チップ搭載ですが、AG32S(G)の設計は AGP 4X (1.5V)規格準拠です。それで AG32S (G)は Intel® 845(GE/PE) / 845(E/G) / 850(E) / E7205 / 865(G/PE/P) / 875P を採用するマザーボード上で正常に動作します。



PCI カードをインストールする前に、PCI スロットに付いている Dual BIOS ラベルを取り外してください。



- ☞ 記載内容の誤り・不適切な表現、誤字脱字など、その結果生じたいかなる損害等に関しても、本書の作者は一切の責任を負いかねます。
- ☞ 本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。
- ☞ マザーボード上のラベルを剥さないでください、これに従わない場合は、本マザーボードの保証が無効にされる場合があります。
- ☞ 情報技術の急速な進歩により、本書を出版後、仕様が変更される場合がありますので、ご了承ください。



WARNING: Never run the processor without the heatsink properly and firmly attached.
PERMANENT DAMAGE WILL RESULT!

Mise en garde: Ne faites jamais tourner le processeur sans que le dissipateur de chaleur soit fixé correctement et fermement. UN DOMMAGE PERMANENT EN RÉSULTERA !

Achtung: Der Prozessor darf nur in Betrieb genommen werden, wenn der Wärmeableiter ordnungsgemäß und fest angebracht ist. DIES HAT EINEN PERMANENTEN SCHADEN ZUR FOLGE!

Advertencia: Nunca haga funcionar el procesador sin el dissipador de calor instalado correctamente y firmemente. ¡SE PRODUCIRÁ UN DAÑO PERMANENTE!

Aviso: Nunca execute o processador sem o dissipador de calor estar adequado e firmemente conectado. O RESULTADO SERÁ UM DANO PERMANENTE!

警告: 將散熱板牢固地安裝到處理器上之前，不要運行處理器。過熱將永遠損壞處理器!

警告: 將散熱器牢固地安裝到處理器上之前，不要運行處理器。過熱將永遠損壞處理器!

경고: 히트싱크를 제대로 또 단단히 부착시키지 않은 채 프로세서를 구동시키지 마십시오. 영구적 고장이 발생할 수 있습니다!

警告: 永久的な損傷を防ぐため、ヒートシンクを正しくしっかりと取り付けるまでは、プロセッサを動作させないようにしてください。

Declaration of Conformity

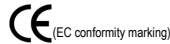
We, Manufacturer/Importer
(full address)

G.B.T. Technology Trading GmbH
Ausschlagler Weg 41, 1F, 20537 Hamburg, Germany

declare that the product
(description of the apparatus, system, installation to which it refers)

Mother Board
GA-8IPE1000 Pro-G/GA-8IPE1000-G/GA-8IPE1000
is in conformity with
(reference to the specification under which conformity is declared)
in accordance with 89/336 EEC-EMC Directive

☐ EN 55011	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of industrial scientific and medical (ISM) high frequency equipment	☐ EN 61000-3-2* ☒ EN 60555-2	Disturbances in supply systems cause by household appliances and similar electrical equipment "Harmonics"
☐ EN 55013	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of broadcast receivers and associated equipment	☐ EN 61000-3-3* ☒ EN 60555-3	Disturbances in supply systems cause by household appliances and similar electrical equipment "Voltage fluctuations"
☐ EN 55014	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of household electrical appliances, portable tools and similar electrical apparatus	☒ EN 50081-1 ☒ EN 50082-1	Generic emission standard Part 1: Residual commercial and light industry Generic immunity standard Part 1: Residual commercial and light industry
☐ EN 55015	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of fluorescent lamps and luminaries	☐ EN 55081-2	Generic emission standard Part 2: Industrial environment
☐ EN 55020	Immunity from radio interference of broadcast receivers and associated equipment	☐ EN 55082-2	Generic emission standard Part 2: Industrial environment
☒ EN 55022	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of information technology equipment	☐ ENV 55104	Immunity requirements for household appliances tools and similar apparatus
☐ DIN VDE 0855 ☐ part 10 ☐ part 12	Cabled distribution systems; Equipment for receiving and/or distribution from sound and television signals	☐ EN50091-2	EMC requirements for uninterruptible power systems (UPS)
☒ CE marking			



The manufacturer also declares the conformity of above mentioned product
with the actual required safety standards in accordance with LVD 73/23 EEC

☐ EN 60065	Safety requirements for mains operated electronic and related apparatus for household and similar general use	☐ EN 60950	Safety for information technology equipment including electrical bussiness equipment
☐ EN 60335	Safety of household and similar electrical appliances	☐ EN 50091-1	General and Safety requirements for uninterruptible power systems (UPS)

Manufacturer/Importer

(Stamp)

Date : Jan. 15, 2004

Signature: Timmy Huang
Name: Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street
City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (818) 854-9338/ (818) 854-9339

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-8IPE1000 Pro-G/GA-8IPE1000-G/
GA-8IPE1000

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109
(a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Jan. 15, 2004

GA-8IPE1000 シリーズ
P4 Titan シリーズマザーボード

ユーザーズマニュアル

Pentium®4 プロセッサマザーボード
改版 3001
12MJ-8IPE1KG-3001

目次

警告	4
第 1 章 はじめに	5
特長の概略	5
GA-8IPE1000 シリーズマザーボードレイアウト	8
ブロック図	9
第 2 章 ハードウェアのインストール手順	11
ステップ 1: 中央処理ユニット (CPU) のインストール	12
ステップ 1-1: CPU インストール	12
ステップ 1-2: CPU 冷却ファンのインストール	13
ステップ 2: メモリモジュールのインストール	14
ステップ 3: 拡張カードのインストール	17
ステップ 4: リボンケーブル、リード線、電源装置の接続	18
ステップ 4-1: I/O 後部パネルの紹介	18
ステップ 4-2: コネクタおよびジャンパー設定の紹介	20
第 3 章 BIOS のセットアップ	35
メインメニュー(例: BIOS Ver.:8IPE1000 Pro-G.E1)	36
Standard CMOS Features	38
Advanced BIOS Features	41
Integrated Peripherals	43
Power Management Setup	48
PnP/PCI Configurations	50

PC Health Status.....	51
Frequency/Voltage Control.....	53
Select Language (*).....	56
Load Fail-Safe Defaults.....	57
Load Optimized Defaults.....	58
Set Supervisor/User Password	59
Save & Exit Setup	60
Exit Without Saving	61
 第 4 章 技術情報.....	 63
@BIOS™ 紹介.....	63
EasyTune™ 4 紹介.....	64
Face-Wizard™ ユーティリティのインストール(*).....	65
BIOS のフラッシュ方法の説明	66
2-/4-/6-/8-チャンネルオーディオ機能紹介	87
Jack-Sensing(UAJ)紹介	93
Xpress Recovery 紹介	95
 第 5 章 付録.....	 99

(*) GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

警告**注意**

マザーボードと拡張カードには、非常に繊細な集積回路(IC)チップが搭載されています。静電気から IC チップを保護するため、コンピュータを使用する際は必ず以下の注意事項に従ってください。

1. ケース内側を扱う際はコンピュータの電源プラグを抜いてください。
2. コンピュータコンポーネントを取扱う前に、接地リストストラップを着用してください。リストストラップがない場合は、接地物または金属物に両手で触れてください。
3. コンポーネントは端面を持つようにし、IC チップ、リード線、コネクタやその他コンポーネントには触れないようにしてください。
4. システムからコンポーネントを外す際は、必ず、コンポーネントを接地された帯電防止パッド、またはコンポーネント付属のバッグの上に置いてください。
5. マザーボードから ATX 電源コネクタを外す際には、ATX 電源装置がオフになっていることをご確認ください。

シャーシへマザーボードのインストール...

マザーボードに取り付け穴がありますが、これらは基部の穴と合わなくて、スペーサーに取り付けスロットがない場合、心配しないでください。スペーサーは依然として取り付け穴に取り付けることができます。ただ、スペーサーの底部を切りますと、(スペーサーは多少硬いので手を切らないようご注意ください)。これでマザーボードを基部にショートの手配なく、取り付けることができます。場合によっては取り付け穴付近に回路があるため、ネジがマザーボード PCB 表面に触れないよう、プラスチックワッシャーを使用する必要があるかもしれません。この際、ネジが取り付け穴付近の PCB プリント配線回路や部品に触れないようご注意ください。接触するとボードの故障や動作不良を起こす可能性があります。

第1章 はじめに

特長の概略

フォームファクター	30.5cm x 23.0cm ATX フォームファクター、4 層 PCB。
マザーボード	GA-8IPE1000 シリーズマザーボード: GA-8IPE1000 Pro-G/GA-8IPE1000-G/GA-8IPE1000
CPU	- Socket 478 Intel® Micro FC-PGA2 Pentium® 4 プロセッサ 対応 - Intel® Pentium® 4 (Northwood, Prescott) プロセッサをサポート - ハイパースレッディングテクノロジー対応 Intel® Pentium 4 プロセッサ - Intel Pentium® 4 400/533/800MHz FSB - CPU による 2 次キャッシュ
チップセット	- チップセット Intel 865PE ホスト/AGP/コントローラ - ICH5 I/O コントローラハブ
メモリ	4 個の 184 ピン DDR DIMM ソケット - デュアルチャンネル DDR400/DDR333/DDR266 DIMM をサポート 128MB/256MB/512MB/1GB バッファなし DRAM をサポート - 最大 4GB の DRAM 搭載可能
I/O コントロール	ITE8712
スロット	1 個の AGP スロットは 8X/4X モードをサポート 5 個の PCI スロットは 33MHz および PCI 2.3 準拠
オンボード IDE	4 つの ATAPI デバイス用の IDE バスマスター (UDMA33/ATA66/ATA100) IDE ポート x 2 - PIO モード 3、4 (UDMA 33/ATA66/ATA100) IDE & ATAPI CD-ROM 対応
シリアル ATA	150 MB/秒動作モードの 2 つのシリアル ATA コネクタ (SATA0/SATA1) - ICH5 により制御

つづく.....



チップセット(Intel 875P/865G/865PE/848P)アーキテクチャ上の制約により、FSB 800 Pentium 4 プロセッサは DDR400/DDR333/DDR266 メモリモジュールをサポートします。FSB 533 Pentium 4 プロセッサは DDR333 および DDR266 メモリモジュールをサポートします。FSB 400 Pentium 4 プロセッサでは DDR 266 メモリモジュールのみのサポートとなります。

オンボード周辺デバイス	• 1 個のフロッピーポートで容量 360K, 720K, 1.2M, 1.44M および 2.88M の 2 基の FDD をサポート。 • 1 個の平行ポートで通常/EPP/ECP モードをサポート • 2 個のシリアルポート(COM A および COM B) • 8 個の USB 2.0/1.1 ポート(4 個はリア、4 個はフロント、ケーブルによる) • 1 個のフロントオーディオコネクタ • 3 個の IEEE1394(ケーブルによる)(*) • 1 個の IrDA コネクタで IR/CIR サポート
ハードウェアモニタ	• CPU/電源(*)/システムファン回転数検出 • CPU/電源(*)/システムファン故障警告 • CPU 過熱警告 • システム電圧検出
オンボードサウンド	• Realtek ALC850 UAJ コーデック • Jack-Sensing サポート • ライン出力/2 個のフロントスピーカー • ライン入力/2 個のリアスピーカー (s/w スイッチによる) • マイク入力/センターおよびサブウーファー (s/w スイッチによる) • SPDIF 出力/SPDIF 入力 • CD_In/ゲームコネクタ • サラウンドリアスピーカー(オプション装備のサラウンドキット使用時)
オンボード LAN(* *)	• 内蔵 Marvell 8001 チップセット(10/100/1000Mbit)(* *) • 1 個の RJ45 ポート
オンボード IEEE 1394(*)	• TiTSB43AB23
PS/2 コネクタ	• PS/2 キーボードインタフェースおよび PS/2 マウスインタフェース
BIOS	• ライセンス済み AWARD BIOS • デュアル BIOS(*)/Q-Flash をサポート • マルチ言語をサポート(*) • フェースウィザードをサポート(*)

つづく.....

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

(*)GA-8IPE1000-G 用のみ。

その他の機能	- パスワードによる PS/2 キーボード電源オン - PS/2 マウス電源オン - STR(RAM へのサスペンド) - AC 復帰 - S3 からの USB キーボード/マウスウェイクアップ - EasyTune 4 をサポート @BIOS をサポート - CPU スマートファン制御機能をサポートします(*)
オーバークロック	- BIOS によるオーバerv電圧(DDR/AGP/CPU) - BIOS によるオーバークロック(DDR/AGP/CPU/PCI)



注

ハイパースレッディング機能に必要な条件:

ご使用のコンピュータシステムでハイパースレッディングテクノロジーが有効となるには下記のプラットフォームコンポーネント条件を全て満たしている必要があります。

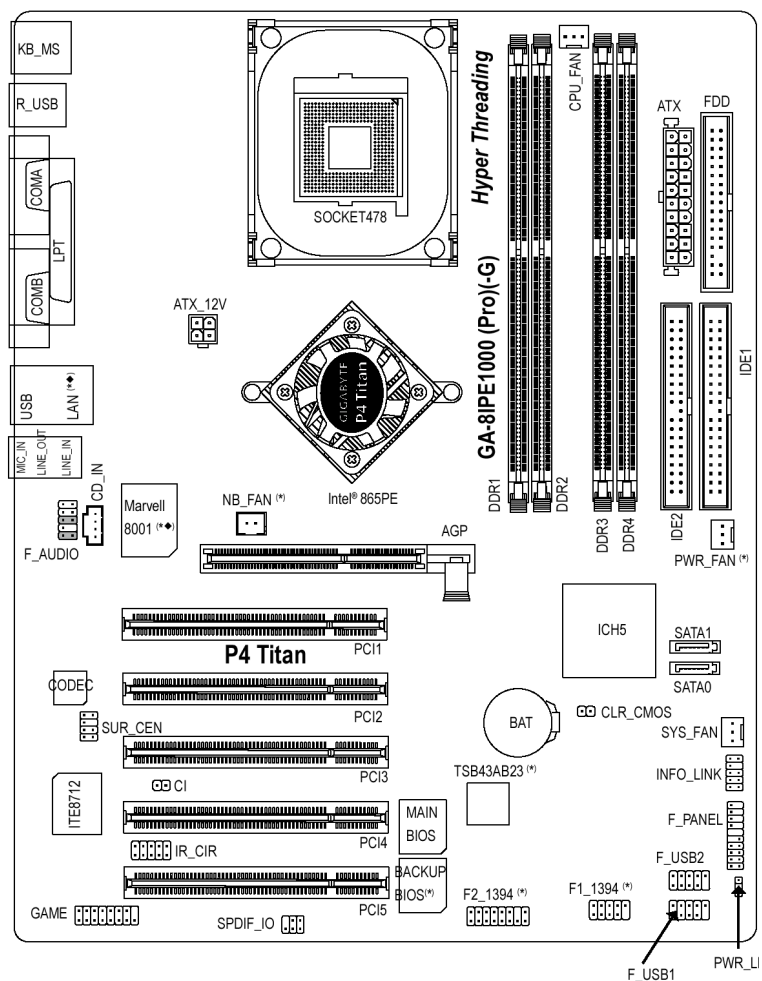
- CPU:ハイパースレッディングテクノロジー対応 Intel® Pentium 4 プロセッサ
- チップセット: ハイパースレッディングテクノロジー対応 Intel® チップセット
- BIOS:ハイパースレッディングテクノロジー対応 BIOS およびその設定が有効になされる
- OS:ハイパースレッディングテクノロジー対応の最適化機能を有するオペレーティングシステム



CPU ホストクロックはプロセッサ仕様にしたがって、設定してください。システムバスクロックを CPU の仕様を超えて設定することは、CPU、チップセットおよび周辺デバイスの標準仕様とは異なるバスクロックとなるのでお勧めしません。システムが指定されたバスクロックで正常動作するかどうかは、CPU、チップセット、メモリ、カードなどのハードウェア設定に依存します。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

GA-8IPE1000 シリーズマザーボードレイアウト

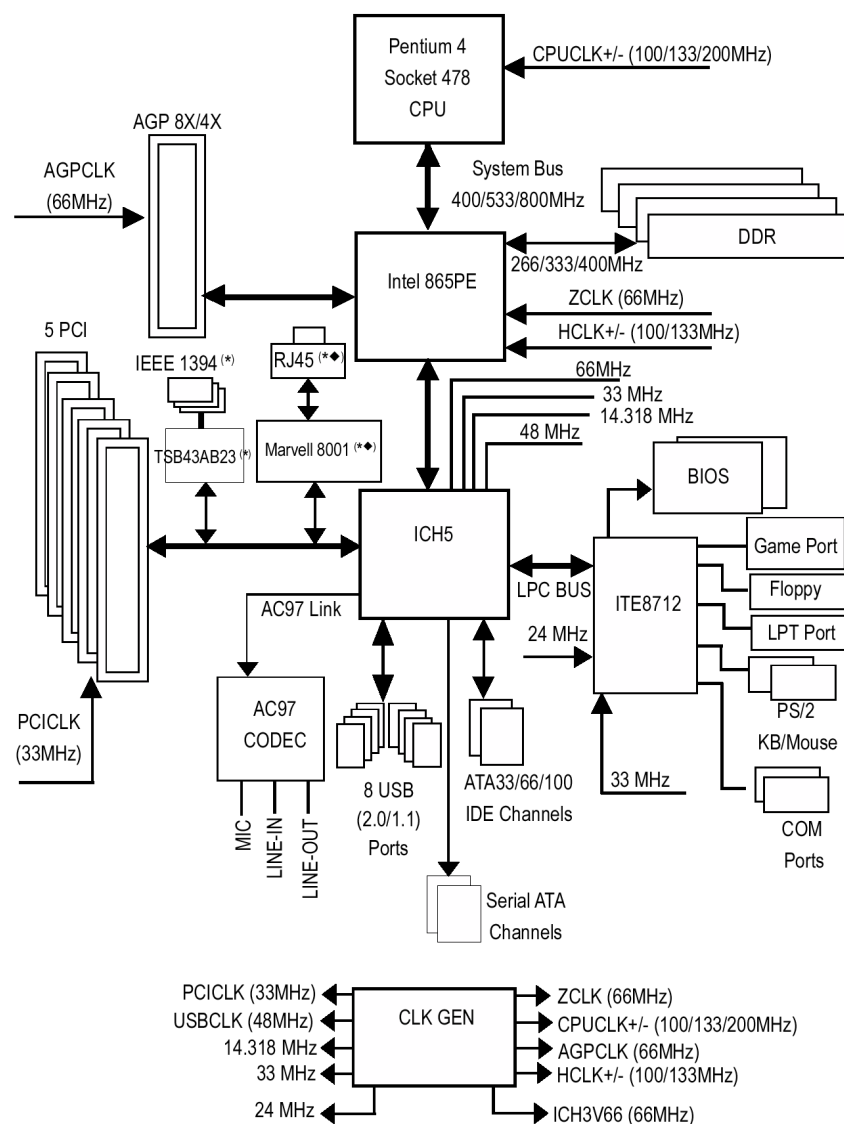


(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

(*)GA-8IPE1000-G 用のみ。

注：マザーボードの NorthBridge にファンシンクがある場合、マザーボードには NB_FAN コネクタが搭載されています。

ブロック図



(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

(♦)GA-8IPE1000-G 用のみ。

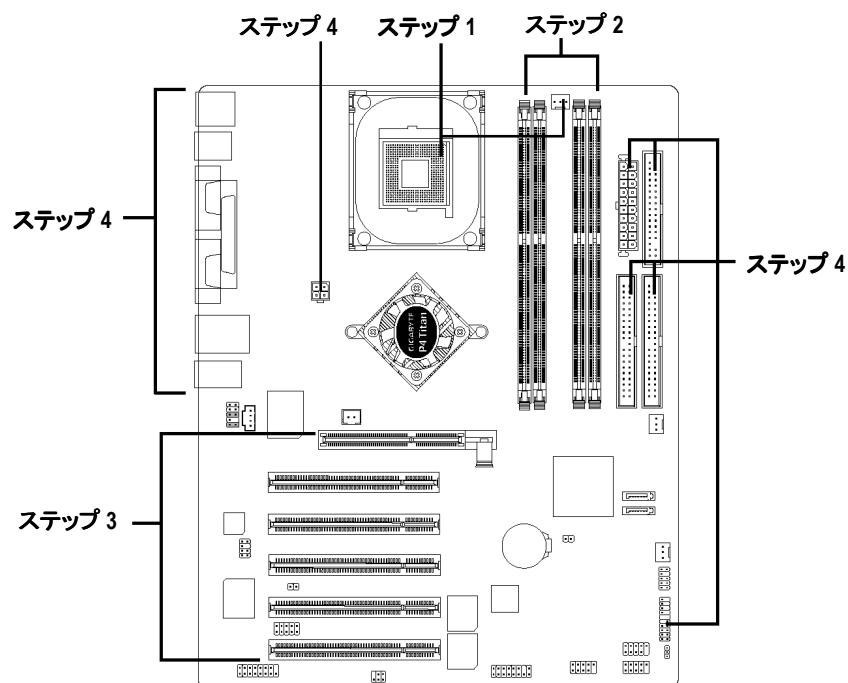
日本語

[illegible]

第2章 ハードウェアのインストール手順

お持ちのコンピュータの設定には下記のステップを完成させる必要があります：

- ステップ 1ー中央処理ユニット(CPU)のインストール
- ステップ 2ーメモリモジュールのインストール
- ステップ 3ー拡張カードのインストール
- ステップ 4ーリボンケーブル、キャビネットのリード線、電源装置の接続



これでハードウェアのインストールは完了しました！

電源装置をオンにするか、電源ケーブルをコンセントに接続します。引き続き、BIOS およびソフトウェアのインストールを行います。

注： マザーボードの NorthBridge にファンシンクがある場合、マザーボードには NB_FAN コネクタが搭載されています。

ステップ 1: 中央処理ユニット(CPU)のインストール



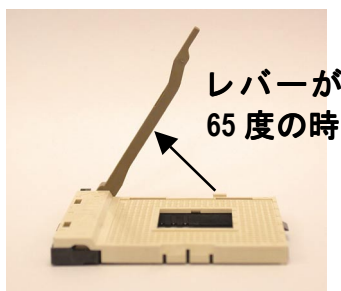
注意

プロセッサのインストールに先立ち、以下の注意事項に注意深く従ってください:

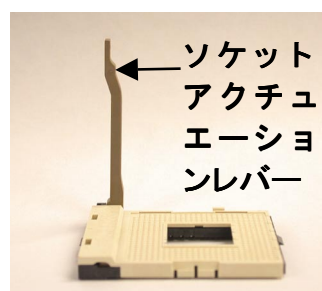
CPU ソケットの1番ピンと CPU カット部を一致させないと、インストールに問題が生じます。差す方向を合わせてください。

CPU の形式がマザーボードでサポートされているものであることを確認してください。

ステップ 1-1: CPU インストール



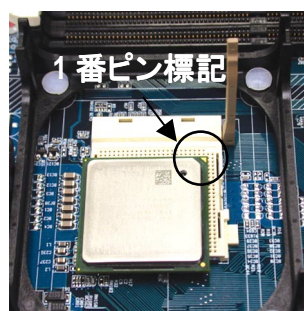
1. レバーが 65 度の時少しきつい感じがしますが、きちんと“カチッ”と音のするまで 90 度に倒します。



2. レバーは 90 度まで引き上げます。



3. CPU 上面図



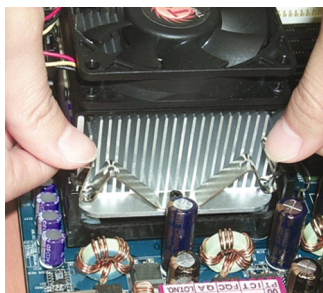
4. ソケットの1番ピンの位置を確認し、CPU 上部の(金色の)カット部の位置を確かめます。それから CPU をソケットに差します。

ステップ 1-2: CPU 冷却ファンのインストール

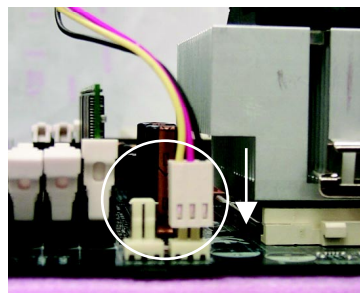


CPU 冷却ファンのインストールに先立ち、以下の注意事項に注意深く従ってください:

1. Intel 公認の冷却ファンをご使用ください。
2. ご使用の CPU とヒートシンクの間にはサーマルテープを貼って放熱効果を高めるようお勧めします。
(サーマルペーストが硬化するため、CPU 冷却ファンが CPU に貼り付く可能性があります。この状態で冷却ファンを外そうとすると、冷却ファンと CPU ソケットを CPU から離すことになり、プロセッサに損傷を与える可能性があります。これを防ぐには、サーマルペーストに代えてサーマルテープを使用するか、冷却ファンを細心の注意を払って外してください。)
3. CPU ファン電源ケーブルが CPU ファンコネクタに接続されていることをご確認ください。これでインストール完了です。
インストール手順の詳細は、お持ちの CPU ファンのユーザーマニュアルをご参照ください。



1. マザーボード上の CPU ソケットに冷却ファン固定用ベースを取り付けます。



2. CPU ファンケーブルが CPU ファンコネクタに接続されていることをご確認ください。これでインストール完了です。

ステップ 2: メモリモジュールのインストール

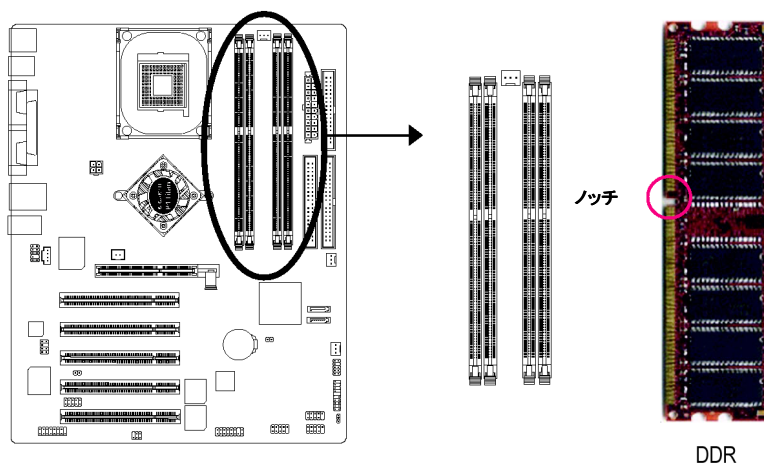


注意

プロセッサおよびヒートシンクのインストールに先立ち、以下の注意事項に注意深く従ってください:

DIMM モジュールはノッチにより一方方向にしか差せないようになってる点にご注意ください。方向を間違えるとインストールに失敗します。差す方向を合わせてください。

マザーボードには 4 個のデュアルインラインメモリモジュール(DIMM)ソケットが装備されています。BIOS がメモリ形式および容量を自動的に検出します。メモリモジュールをインストールするには、DIMM ソケットに真っ直ぐ押し込みます。DIMM モジュールはノッチにより一方方向にしか差せないようになっています。メモリ容量はソケットごとに異なっても構いません。



GA-8IPE1000 シリーズはデュアルチャンネルテクノロジーをサポートしています。デュアルチャンネルテクノロジーを操作すると、メモリバンド幅が最大6.4GB/秒まで倍増されます。

GA-8IPE1000 シリーズには 4 DIMM ソケットが含まれ、各チャンネルが以下の通り 2 つの DIMM ソケットを搭載しています:

- ▶▶ チャンネル A: DIMM 1、DIMM 2
- ▶▶ チャンネル B: DIMM 3、DIMM 4

デュアルチャンネルテクノロジーで操作したい場合は、以下の説明は Intel® チップセット仕様の制限対象になることにご注意ください。

1. DDR メモリモジュール 1 つのみがインストールされています: デュアルチャンネルテクノロジーは、1 つの DDR メモリモジュールしかインストールされていない場合はご使用になれません。

2. 2個のDDRメモリモジュールがインストール(同一のメモリ容量、同一タイプ)された場合: デュアルチャンネルテクノロジーは2個のメモリモジュールがチャンネルAとチャンネルBのそれぞれに装着された場合動作します。2つのメモリを同じチャンネルにインストールしてある場合、デュアルチャンネルテクノロジーは作動しません。
3. 3個のDDRメモリモジュールがインストールされた場合: デュアルチャンネルテクノロジーは、3個のDDRのインストールでは動作しません。また、それらの部分が検出されません。
4. 4個のDDRメモリモジュールがインストールされた場合: 4つのメモリモジュールがインストールされている場合、デュアルチャンネルテクノロジーはこれらのモジュールが同じメモリサイズ、且つ同じメモリタイプである場合のみに有効となります。

2つのDDRメモリモジュールを同じ色のDIMMに挿入し、デュアルチャンネルテクノロジーを有効にすることを強く推奨します。

下表にはインストールされたメモリの組合せ形式が皆含まれています:

(表にない組み合わせ方は起動しないので注意してください。)

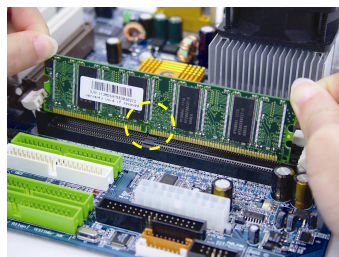
● 図1: デュアルチャンネルテクノロジー(DS: 両面実装、SS: 片面実装)

	DIMM 1	DIMM 2	DIMM 3	DIMM 4
2個のメモリモジュール	DS/SS	X	DS/SS	X
	X	DS/SS	X	DS/SS
4個のメモリモジュール	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

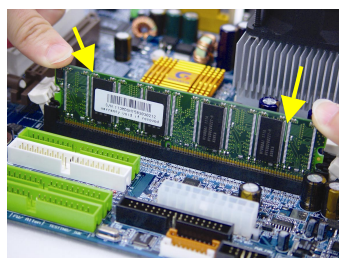
● 図2: デュアルチャンネルテクノロジーを使用しない(DS: 両面実装、SS: 片面実装)

	DIMM 1	DIMM 2	DIMM 3	DIMM 4
1個のメモリモジュール	DS/SS	X	X	X
	X	DS/SS	X	X
	X	X	DS/SS	X
	X	X	X	DS/SS
2個のメモリモジュール	DS/SS	DS/SS	X	X
	X	X	DS/SS	DS/SS
3個のメモリモジュール	DS/SS	DS/SS	DS/SS	X
	DS/SS	DS/SS	X	DS/SS
	DS/SS	X	DS/SS	DS/SS
	X	DS/SS	DS/SS	DS/SS

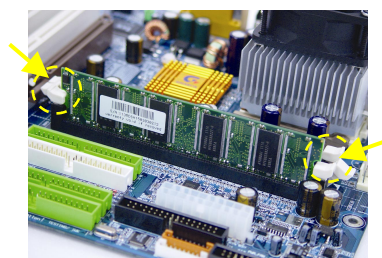
1. DIMM モジュールは DIMM スロットの
ノッチにより一方向にしか差せない
ようになっています。



2. DIMM メモリは、DIMM スロットに真
っ直ぐ差し込みます。そして下方に押
し込みます。



3. DIMM スロットの両側にあるプラス
チックのクリップを閉じて、DIMM
モジュールを固定します。
DIMM モジュールを取り外すにはイ
ンストールと逆の手順で行いま
す。



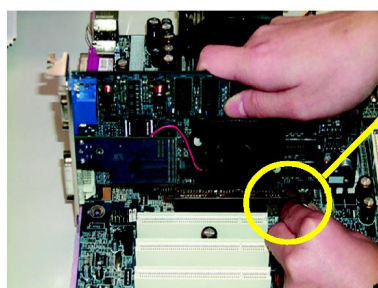
DDR の紹介

DDR (ダブルデータレート) メモリは、既存の SDRAM のハードウェア構造を基本とした、ハイパフォーマンスで高効率のソリューションで、メモリベンダー、OEM およびシステムインテグレーターにとって採用が容易です。

DDR メモリは、PC の業界に大きな進歩となるソリューションで、既存の SDRAM での構成でありながらメモリ帯域幅を 2 倍にすることで、システムのボトルネックを解消するのに飛躍的な進歩を遂げています。現在では、DDR400 メモリの最大帯域幅 3.2GB/s および DDR400/333/266/200 のメモリの完成したラインというソリューションにより、DDR メモリはサーバー、ワークステーションおよび幅広いデスクトップ PC に適した、高性能で低レイテンシの DRAM サブシステムの構築に最適な選択です。

ステップ 3: 拡張カードのインストール

1. 拡張カードのインストールに先立ち、関連した指示説明をお読みください。
2. コンピュータからケースカバー、固定用ネジ、スロットブラケットを外します。
3. マザーボードの拡張スロットに拡張カードを確実に差しします。
4. カードの金属接点面がスロットに確実に収まったことを確認してください。
5. スロットブラケットのネジを戻して、拡張カードを固定します。
6. コンピュータのシャーシカバーを戻します。
7. コンピュータの電源をオンにします。必要であれば BIOS セットアップから拡張カード対象の BIOS 設定を行います。
8. オペレーティングシステムから関連のドライバをインストールします。



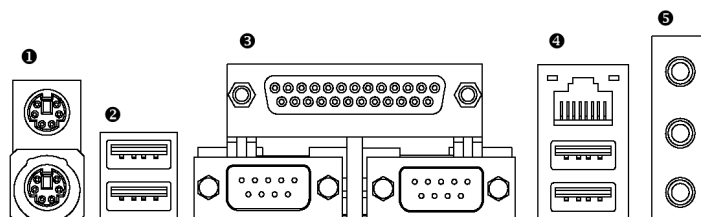
AGP カード



AGP カードのインストール・取外しの際は、AGP スロットの端にある白いバーを静かに引き出してください。AGP カードをオンボードの AGP スロットに合わせ、確実に中に差ししてください。ご使用になる AGP カードが小さな白いバーによってロックされたことを確認してください。

ステップ 4 : リボンケーブル、リード線、電源装置の接続

ステップ 4-1: I/O 後部パネルの紹介



❶ PS/2 キーボードおよび PS/2 マウスコネクタ

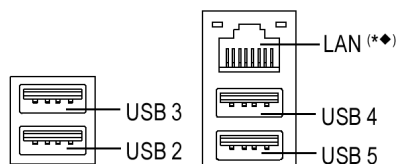


PS/2 マウスコネクタ
(6 ピンメス)

PS/2 キーボードコネクタ
(6 ピンメス)

➤ 当コネクタは標準の PS/2 キーボードおよび PS/2 マウスをサポートしています。

❷/❸ USB / LAN コネクタ



➤ USB コネクタに USB キーボード、マウス、スキャナー、zip、スピーカーなどを接続する前に、ご使用になるデバイスが標準の USB インタフェースを装備していることをご確認ください。またご使用の OS が USB コントローラをサポートしていることもご確認ください。

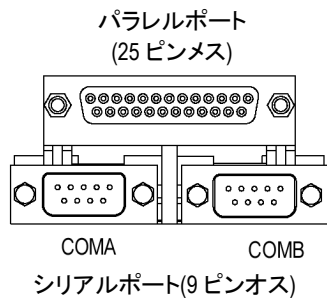
ご使用の OS が USB コントローラをサポートしていない場合は、OS ベンダーに利用可能なパッチやドライバの更新についてお問い合わせください。詳細はご使用の OS やデバイスのベンダーにお問い合わせください。

➤ LAN コネクタは 10/100/1000Mbps 速度の高速イーサネットです。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

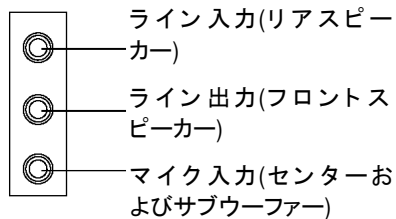
(❶)GA-8IPE1000-G 用のみ。

⑥ パラレルポートおよびシリアルポート(COMA/COMB)



- 当コネクタは2個の標準のCOMポートおよび1個のパラレルポートをサポートしています。プリンタなどのデバイスはパラレルポートに接続し、マウスやモデムなどはシリアルポートに接続します。

⑦ オーディオコネクタ



- オンボードオーディオドライバのインストール後、スピーカーはライン出力ジャックに、マイクはマイク入力ジャックに接続できます。CD-ROM やウォークマンなどはライン入力ジャックに接続できません。

下記にご注意ください:

S/W 切替により、2-/4-/6-/8-チャンネルオーディオ機能が使用可能です。

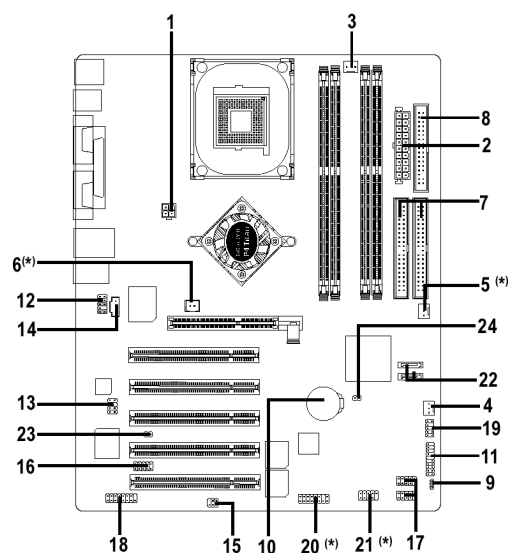
8チャンネル機能を利用する際は 27 ページをご覧ください、オプション装備の SUR_CEN ケーブルを最寄りの販売店よりお求めください。



注

2-/4-/6-/8-チャンネルオーディオのインストール設定に関する詳細は、87 ページをご参照ください。

ステップ 4-2: コネクタおよびジャンパー設定の紹介



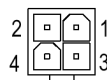
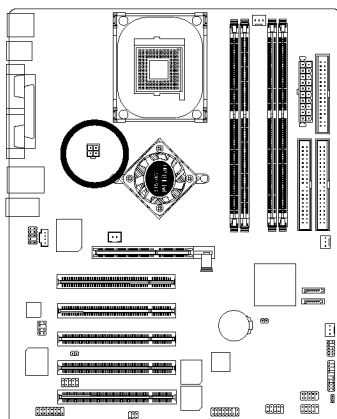
1) ATX_12V	13) SUR_CEN
2) ATX	14) CD_IN
3) CPU_FAN	15) SPDIF_IO
4) SYS_FAN	16) IR_CIR
5) PWR_FAN ^(*)	17) F_USB1/ F_USB2
6) NB_FAN ^(*)	18) GAME
7) IDE1/ IDE2	19) INFO_LINK
8) FDD	20) F2_1394 ^(*)
9) PWR_LED	21) F1_1394 ^(*)
10) BAT	22) SATA0/ SATA1
11) F_PANEL	23) CI
12) F_AUDIO	24) CLR_CMOS

^(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

注: マザーボードの NorthBridge にファンシンクがある場合、マザーボードには NB_FAN コネクタが搭載されています。

1) ATX_12V(+12V 電源コネクタ)

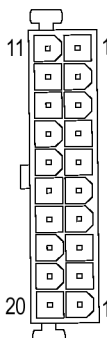
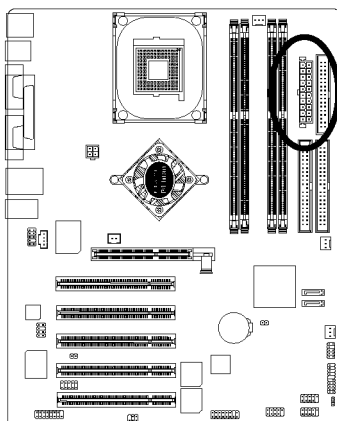
当コネクタ(ATX_12V)から CPU 動作電圧(Vcore)が供給されます。この“ATX_12V コネクタ”が接続されていないと、システムは起動できません。



ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V

2) ATX (ATX 電源)

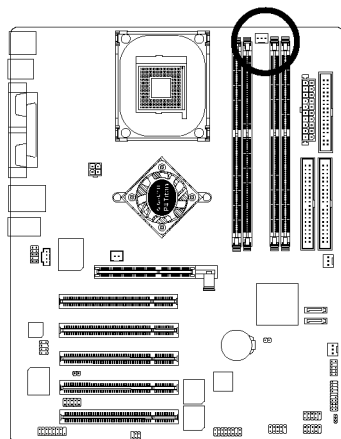
ATX 電源ケーブルおよびその他関連デバイスを確実にマザーボードに接続してからこそ、AC 電源コードを電源装置に接続できます。



ピン番号	定義
1	3.3V
2	3.3V
3	GND
4	VCC
5	GND
6	VCC
7	GND
8	電源装置
9	5V SB (スタンバイ+5V)
10	+12V
11	3.3V
12	-12V
13	GND
14	PS_ON (ソフトオン/オフ)
15	GND
16	GND
17	GND
18	-5V
19	VCC
20	VCC

3) CPU_FAN (CPU ファンコネクタ)

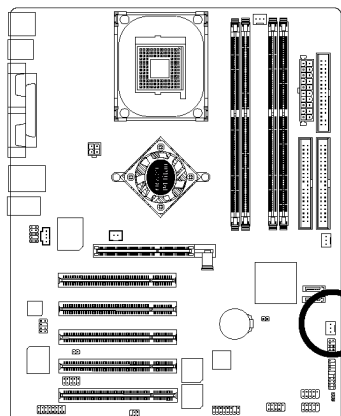
CPU クーラーの適切なインストールは、CPU が異常動作をしたり過熱による損傷を受けたりするのを防止するのに大切である点にご注意ください。CPU ファンコネクタの最大許容電流は 600 mA です。



ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	Sense

4) SYS_FAN (システムファンコネクタ)

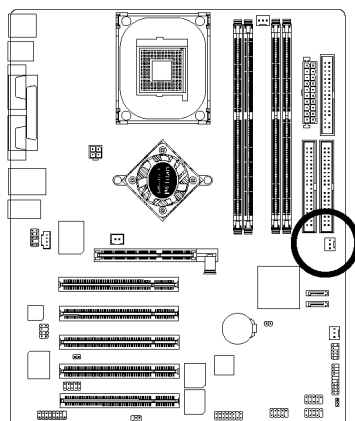
当コネクタにより、システムケース上部の冷却ファンでシステム温度を下げるすることができます。



ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	Sense

5) PWR_FAN(電源ファンコネクタ)^(*)

当コネクタにより、システムケース上部の冷却ファンでシステム温度を下げるすることができます。

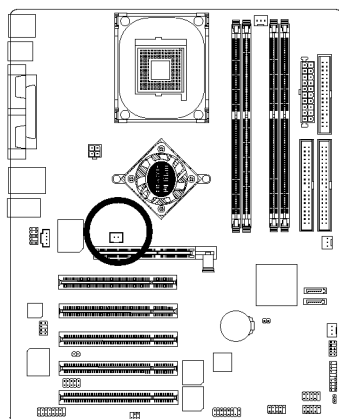


ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	Sense

6) NB_FAN^(*)

間違った方向に接続すると、チップファンは動作しません。チップファンの故障の原因となります。(通常黒いケーブルは接地用 GND です)

注：マザーボードの NorthBridge にファンシンクがある場合、マザーボードには NB_FAN コネクタが搭載されています。

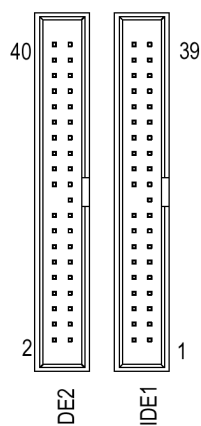
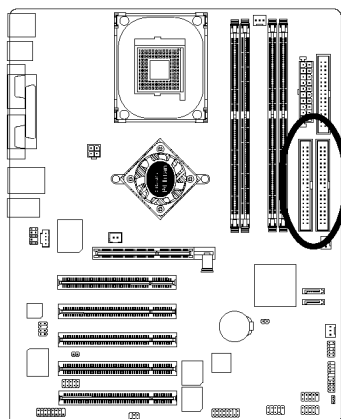


ピン番号	定義
1	GND
2	VCC

^(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

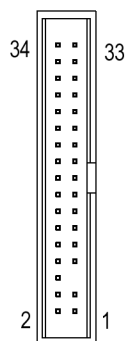
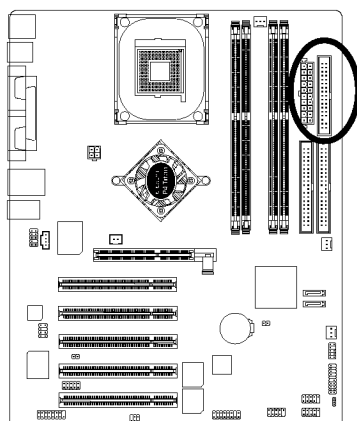
7) IDE1/IDE2 (IDE1/IDE2 コネクタ)

まずハードディスクを IDE1 に、CD-ROM ドライブを IDE2 に接続してください。リボンケーブルの赤い線の側を 1 番ピンに合わせます。



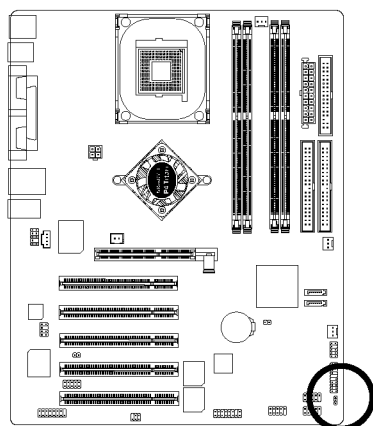
8) FDD(フロッピーコネクタ)

フロッピードライブのリボンケーブルは FDD に接続してください。サポートされているフロッピーディスクのタイプは 360K、720K、1.2M、1.44M および 2.88M バイトです。リボンケーブルの赤い線の側を 1 番ピンに合わせます。



9) PWR_LED

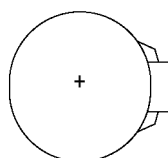
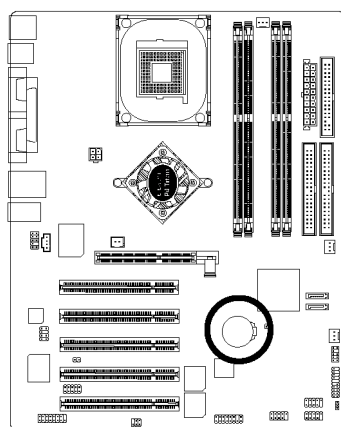
PWR_LED はシステム電源表示ランプに接続してシステムのオン/オフを表示します。システムがサスペンドモードになると点滅します。2 色 LED をご使用の場合は、電源 LED は別の色に点灯します。



1

ピン番号	定義
1	MPD+
2	MPD-
3	MPD-

10) BAT (バッテリー)



注意

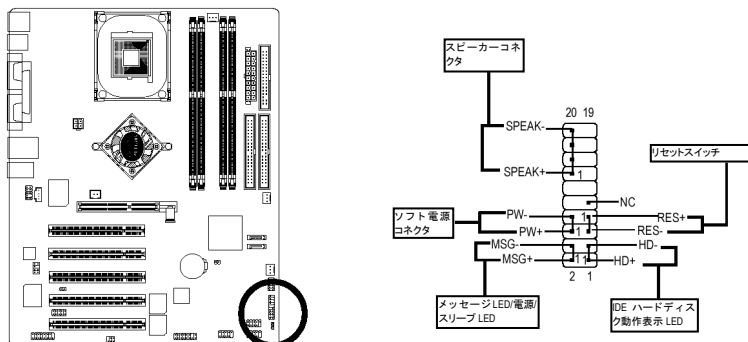
- ❖ バッテリーの交換を間違えると爆発の危険があります。
- ❖ メーカー推奨と同一のタイプの物と交換してください。
- ❖ 使用済みバッテリーはメーカーの指示に従って廃棄してください。

CMOS 内容を消去するには...

1. コンピュータをオフにし、電源コードのプラグを外します。
2. バッテリーを外して、30 秒放置します。
3. バッテリーを入れなおします。
4. 電源コードのプラグを差し、コンピュータをオンにします。

11) F_PANEL (2x10 ピンコネクタ)

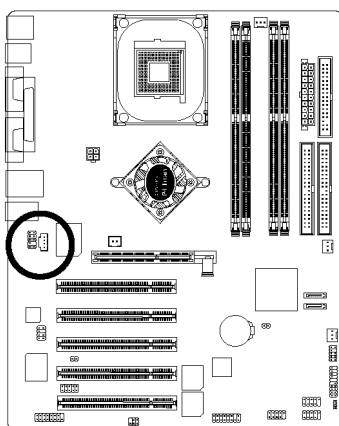
ご使用のケースのフロントパネルにある電源 LED、PC スピーカー、リセットスイッチおよび電源スイッチなどを以下のピン配列にしたがって、F_PANEL に接続します。



HD (IDE ハードディスク動作表示 LED) (青)	ピン 1:LED 正極 ピン 2:LED 負極
SPEAK (スピーカーコネクタ) (アンバー)	ピン 1:VCC (+) ピン 2-ピン 3:NC ピン 4:Data (-)
RES (リセットスイッチ) (緑)	オープン:通常動作時 ショート:ハードウェアシステムのリセット
PW (ソフトウェア電源コネクタ) (赤)	オープン:通常動作時 ショート:電源オン/オフ
MSG (メッセージ LED/電源/スリープ LED) (黄色)	ピン 1:LED 正極(+) ピン 2:LED 負極(-)
NC(紫)	NC

12) F_AUDIO (F_AUDIO コネクタ)

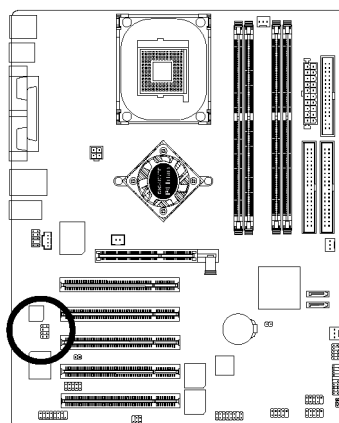
フロントオーディオコネクタを使用する場合は、5-6、9-10 番ジャンパーを外す必要があります。フロントオーディオヘッダーを利用するには、お持ちのシャーシにフロントオーディオコネクタが装備されている必要があります。また、ケーブルのピン配列がマザーボードヘッダーのピン配列と同じであることをご確認ください。お買い求めのシャーシがフロントオーディオコネクタを装備しているかどうかは、お買い上げ店にお確かめください。サウンド再生にはフロントオーディオコネクタとリアオーディオコネクタが同様に使用可能です。



ピン 番号	定義
1	MIC
2	GND
3	REF
4	電源
5	フロントオーディオ(R)
6	リアオーディオ(R)
7	予備
8	ピンなし
9	フロントオーディオ(L)
10	リアオーディオ(L)

13) SUR_CEN

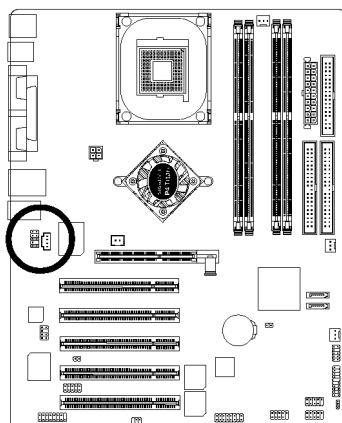
オプション装備の SUR_CEN ケーブルは最寄の販売店にお問い合わせ下さい。



ピン 番号	定義
1	SUR OUTL
2	SUR OUTR
3	GND
4	ピンなし
5	CENTER_OUT
6	BASS_OUT
7	AUX_L
8	AUX_R

14) CD_IN (CD 入力、黒)

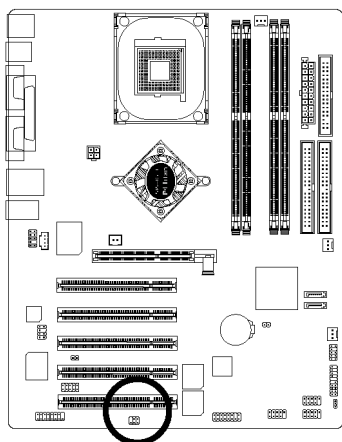
CD-ROM または DVD-ROM のオーディオ出力はこのコネクタに接続します。



ピン 番号	定義
1	CD-L
2	GND
3	GND
4	CD-R

15) SPDIF_IO (SPDIF 入/出力)

SPDIF 出力はデジタルオーディオを外部スピーカーに、AC3 圧縮データを外部ドルビーデジタルデコーダーに出力できます。この機能はお持ちのステレオ装置がデジタル入力機能を装備している場合のみ使用可能です。SPDIF 入力機能はご使用の装置がデジタル出力機能を装備している場合のみ使用可能です。SPDIF_IO コネクタの極性にご注意ください。SPDIF ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備の SPDIF ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。

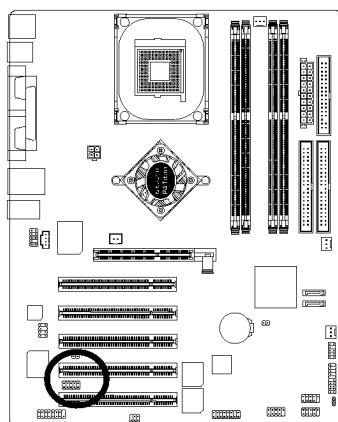


ピン 番号	定義
1	VCC
2	ピンなし
3	SPDIF
4	SPDIFI
5	GND
6	GND

16) IR_CIR

IR デバイスの 1 番ピンとコネクタの 1 番ピン側が合っているかご確認ください。オンボードの IR/CIR 機能を使用するには、オプション装備の IR/CIR モジュールの購入が必要です。詳細については Giga-Byte 公認販売店にお問い合わせください。IR 機能のみ使用する場合は、IR モジュールを 1 番ピンから 5 番ピンに接続してください。

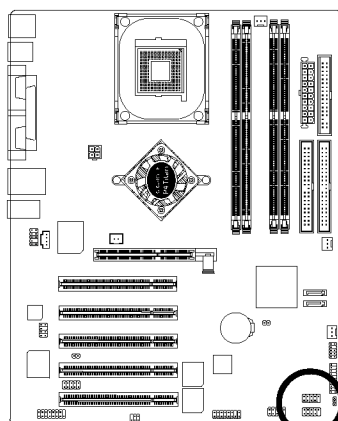
IR/CIR コネクタの極性にご注意ください。IR/CIR ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備の IR/CIR ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	VCC
2	NC
3	IRRX
4	GND
5	IRTX
6	NC
7	CIRRX
8	VCC
9	CIRTX
10	NC

17) F_USB1 / F_USB2(フロント USB コネクタ、黄色)

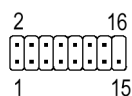
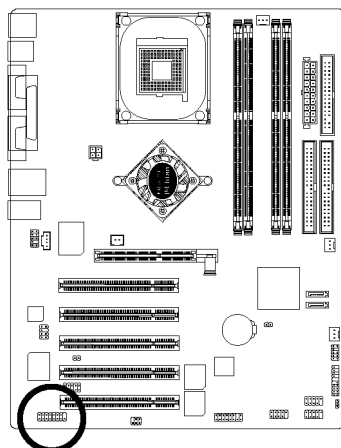
フロント USB コネクタの極性にご注意ください。フロント USB ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備のフロント USB ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	電源
2	電源
3	USB0 DX-/USB6 DX-
4	USB1 Dy-/USB7 Dy-
5	USB0 DX+/USB6 DX+
6	USB1 Dy+/USB7 Dy+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC

18) GAME (ゲームコネクタ)

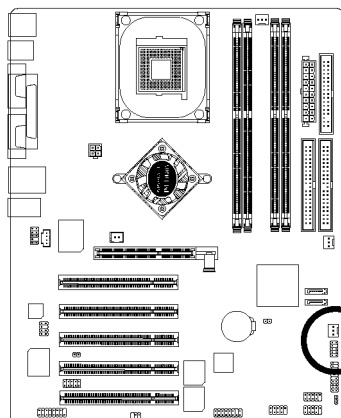
このコネクタはジョイスティック、MIDI キーボードおよびその他関連オーディオデバイスをサポートしています。



ピン番号	定義
1	VCC
2	GRX1_R
3	GND
4	GPSA2
5	VCC
6	GPX2_R
7	GPY2_R
8	MSL_R
9	GPSA1
10	GND
11	GPY1_R
12	VCC
13	GPSB1
14	MSO_R
15	GPSB2
16	ピンなし

19) INFO LINK

このコネクタにより、外部デバイスを接続して拡張機能を付加できます。

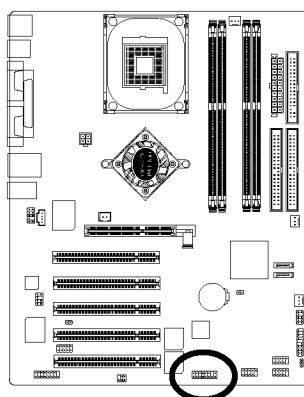


ピン番号	定義
1	SMBCLK
2	VCC
3	SMBDATA
4	GPIO
5	GND
6	GND
7	ピンなし
8	NC
9	+12V
10	+12V

20) F2_1394(IEEE 1394 コネクタ)^(*)

下記にご注意ください：電気電子学会で制定されたシリアルインタフェース規格で、高速転送、広帯域、およびホットプラグを特徴としています。

IEEE1394 コネクタの極性にご注意ください。IEEE1394 ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備の IEEE1394 ケーブルのお求めにはトルの販売店にお問い合わせください。

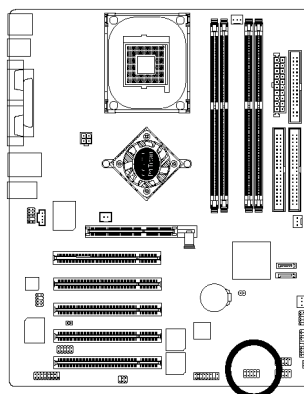


ピン番号	定義
1	電源
2	電源
3	TPA0+
4	TPA0-
5	GND
6	GND
7	TPB0+
8	TPB0-
9	電源
10	電源
11	TPA1+
12	TPA1-
13	GND
14	ピンなし
15	TPB1+
16	TPB1-

21) F1_1394(IEEE 1394 コネクタ)^(*)

下記にご注意ください：電気電子学会で制定されたシリアルインタフェース規格で、高速転送、広帯域、およびホットプラグを特徴としています。

IEEE1394 コネクタの極性にご注意ください。IEEE1394 ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備の IEEE1394 ケーブルのお求めにはトルの販売店にお問い合わせください。

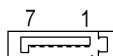
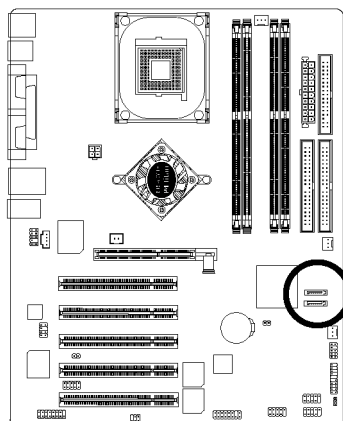


ピン番号	定義
1	TPA2+
2	TPA2-
3	GND
4	GND
5	TPB2+
6	TPB2-
7	電源
8	電源
9	ピンなし
10	GND

^(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

22) SATA0 / SATA1 (シリアル ATA コネクタ)

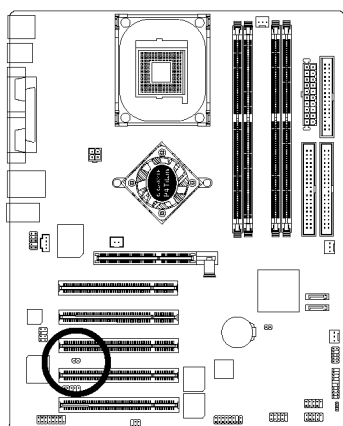
このコネクタにシリアル ATA デバイスが接続でき、最大データ転送速度は 150MB/sec に達します。



ピン 番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

23) CI (ケース開放)

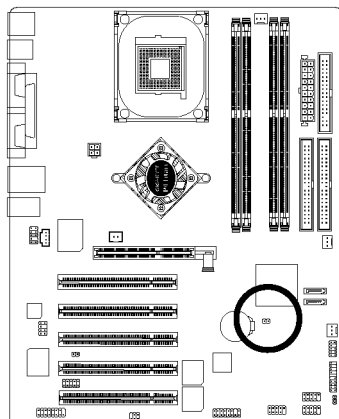
この 2 ピンコネクタは BIOS の“Case Open”項目の有効または無効にでき、本体ケースが開けられたことの検出に使用されます。



ピン 番号	定義
1	信号
2	GND

24) CLR_CMOS (CMOS クリア)

このジャンパーにより、CMOS データをクリアしてデフォルト値に復元できます。CMOS のクリアには一時的に 1-2 番ピンをショートさせます。デフォルトではジャンパーの不適切な使用を防ぐ“シランター(shunter)”はありません。



1  オープン: 通常

1  短く: CMOS クリア

日本語

[illegible]

第3章 BIOS のセットアップ

BIOS のセットアップでは BIOS セットアッププログラムの概要を説明します。プログラムにより、ユーザーは基本システム設定を変更できます。このタイプのデータはバッテリーバック(battery-backed)付き CMOS RAM に保存されるので、電源をオフにしてもセットアップデータは保たれます。

セットアップの起動

コンピュータをオンにし、すぐにを押すと、セットアップが起動されます。BIOS の詳細設定が必要な場合は、“Advanced BIOS” 設定メニューに移ってください。Advanced BIOS 設定メニューは BIOS 画面で“Ctrl+F1”キー操作で表示されます。

制御用キー

<↑>	前の項目に戻る
<↓>	次の項目に進む
<←>	左側の項目に移る
<→>	右側の項目に移る
Enter	項目の選択
<Esc>	メインメニュー - CMOS Status Page Setup MenuとOption Page Setup Menu を変更せずに終了-現在のページを終了し、メインメニューに戻る
<+/PgUp>	数値を増加または変更
<-/PgDn>	数値を減少または変更
<F1>	一般のヘルプ、Status Page Setup MenuおよびOption Page Setup Menuの みを対象
<F2>	項目のヘルプ
<F3>	予備
<F4>	予備
<F5>	CMOSを前のCMOS設定に戻す、Option Page Setup Menuのみを対象
<F6>	BIOSデフォルトテーブルから安全なデフォルトCMOS設定値をロード
<F7>	最適デフォルト値をロード
<F8>	デュアルBIOS ^(*) /Q-Flash機能
<F9>	システム情報
<F10>	CMOS変更を全て保存、メインメニューのみを対象

^(*)GA-8IPE1000 Pro-G用のみ。

ヘルプの表示

メインメニュー

ハイライト表示された設定機能のオンライン説明がスクリーン下部に表示されます。

Status page setup メニュー / Option Page Setup メニュー

F1 を押すとハイライト表示された項目に使用可能なキーおよび可能な選択内容が小さなウィンドウに表示されます。ヘルプウィンドウを閉じるには<Esc>を押します。

メインメニュー(例: BIOS Ver.:8IPE1000 Pro-G.E1)

Award BIOS CMOS セットアップユーティリティを起動すると、画面にメインメニュー(図 1)が表示されます。メインメニューから設定機能 8 項目および 2 種類が選ばれます。矢印キーで項目を選び<Enter>を押して決定、またはサブメニューに進みます。

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

▶Standard CMOS Features	Select Language (*)
▶Advanced BIOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶Integrated Peripherals	Load Optimized Defaults
▶Power Management Setup	Set Supervisor Password
▶PnP/PCI Configurations	Set User Password
▶PC Health Status	Save & Exit Setup
▶Frequency/Voltage Control	Exit Without Saving
ESC:Quit	F3: Change Language (*)
F8: Dual BIOS (*)/Q-Flash	F10:Save & Exit Setup
Time, Date, Hard Disk Type...	

図 1: メインメニュー



必要な設定項目が見当たらない場合は、“Ctrl+F1”を押して詳細設定を展開してください。

- **Standard CMOS Features**
この設定ページには標準互換 BIOS 内の項目全部が含まれています。
- **Advanced BIOS Features**
この設定ページには Award 専用拡張機能の項目全部が含まれています。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

- **Integrated Peripherals**
この設定ページにはオンボードペリフェラル項目が全て含まれています。
- **Power Management Setup**
この設定ページには節電機能関連項目が全て含まれています。
- **PnP/PCI Configurations**
この設定ページには PCI およびプラグアンドプレイ ISA リソースの設定項目が全て含まれています。
- **PC Health Status**
この設定ページは、システムにより自動検出された温度、電圧、ファン速度が表示されます。
- **Frequency/Voltage Control**
この設定ページは CPU クロックおよびクロックレシオを調節するものです。
- **Select Language (*)**
この設定ページでは使用言語を指定します。
- **Load Fail-Safe Defaults**
Fail-Safe Defaults はシステムが安定動作する設定値を表示します。
- **Load Optimized Defaults**
Optimized Defaults はシステムが最良の性能で動作する設定値を表示します。
- **Set Supervis or password**
パスワードの変更、設定、無効化を行います。これでシステムおよびセットアップ、またはセットアップのみへのアクセスを制限します。
- **Set User password**
パスワードの変更、設定、無効化を行います。これでシステムへのアクセスを制限します。
- **Save & Exit Setup**
CMOS 設定値を CMOS に保存し、セットアップを終了します。
- **Exit Without Saving**
CMOS 設定値を全てキャンセルし、セットアップを終了します。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G用のみ。

Standard CMOS Features

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

Standard CMOS Features

Date (mm:dd:yy)	Tue, Aug 13 2002	Item Help
Time (hh:mm:ss)	22:31:24	Menu Level ►
►IDE Channel 0 Master	None	Change the day, month, year
►IDE Channel 0 Slave	None	
►IDE Channel 1 Master	None	<Week>
►IDE Channel 1 Slave	None	Sun. to Sat.
Drive A	[1.44M, 3.5 in.]	<Month>
Drive B	[None]	Jan. to Dec.
Floppy 3 Mode Support	[Disabled]	
Halt On	[All, But Keyboard]	<Day>
		1 to 31 (or maximum allowed in the month)
Base Memory	640K	
Extended Memory	130048K	<Year>
Total Memory	131072K	1999 to 2098
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F3: Language (*) F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 2: Standard CMOS Features

🔗 Date

日付のフォーマットは<曜日>、<月>、<日>、<年>です。

- ▶▶ Week 日曜から土曜までの曜日は BIOS で設定され、表示用のみです
- ▶▶ Month 月は 1 月から 12 月までです。
- ▶▶ Day 日は 1 から 31(またはその月に存在する日数)までです
- ▶▶ Year 年は 1999 から 2098 までです

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

🔗 Time

時刻のフォーマットは<時><分><秒>です。時刻は 24 時間制です。例えば午後 1 時は 13:00:00 となります。

🔗 IDE Channel 0 Master, Slave / IDE Channel 1 Master, Slave

この項目はコンピュータにインストールされたドライブ C から F までのハードディスクのタイプを検出します。タイプはオートとマニュアルの 2 種類があります。マニュアルタイプはユーザー定義可能です。オートタイプは HDD のタイプを自動検出します。

ご使用のドライブの仕様はドライブテーブルと一致している必要があります。この項目で不正確なデータを入力すると、ハードディスクは正常に動作しません。

ユーザータイプを選択すると、以下の項目の入力を求められます。必要なデータをキーボード入力し、<Enter>を押します。これらの情報はご使用のハードディスクベンダーまたはシステムメーカーからの説明書に載せられています。

- ▶▶ CYLS. シリンダ数
- ▶▶ HEADS ヘッド数
- ▶▶ PRECOMP ライト・プリコンペンセーション
- ▶▶ LANDZONE ランディングゾーン
- ▶▶ SECTORS セクタ数

ハードディスクがインストールされていない場合は NONE を選び、<Enter>を押します。

🔗 Drive A / Drive B

この項目はコンピュータにインストールされたフロッピードライブ A またはドライブ B のタイプを設定します。

- ▶▶ None フロッピードライブはインストールされていません
- ▶▶ 360K, 5.25 in. 5.25 インチ PC 内蔵標準ドライブ; 容量は 360K バイト
- ▶▶ 1.2M, 5.25 in. 5.25 インチ AT タイプ高密度ドライブ; 容量は 1.2M バイト
(3 モードが有効の場合は 3.5 インチ)
- ▶▶ 720K, 3.5 in. 3.5 インチ両面ドライブ; 容量は 720K バイト
- ▶▶ 1.44M, 3.5 in. 3.5 インチ両面ドライブ; 容量は 1.44M バイト
- ▶▶ 2.88M, 3.5 in. 3.5 インチ両面ドライブ; 容量は 2.88M バイト。

☞ Floppy 3 Mode Support (for Japan Area)

- ▶▶ Disabled 通常のフロッピードライブ。(デフォルト値)
- ▶▶ Drive A ドライブ A は 3 モードフロッピードライブです。
- ▶▶ Drive B ドライブ B は 3 モードフロッピードライブです。
- ▶▶ Both ドライブ A および B は 3 モードフロッピードライブです。

☞ Halt on

この項目で電源投入時にエラー検出があった場合に、コンピュータを停止するかどうかを決定します。

- ▶▶ NO Errors システム起動時にエラー検出があっても、続行します。
- ▶▶ All Errors BIOS が重大ではないエラーを検出しても、システムは停止します。
- ▶▶ All, But Key board システム起動はキーボードエラーでは続行しますが、それ以外のエラーでは停止します。(デフォルト値)
- ▶▶ All, But Diskette システム起動はディスクエラーでは続行しますが、それ以外のエラーでは停止します。
- ▶▶ All, But Disk/Key システム起動はキーボードまたはディスクエラーでは続行しますが、それ以外のエラーでは停止します。

☞ Memory

この項目は表示のみで、BIOS の POST (電源起動時セルフテスト)によって判断されます。

Base Memory

BIOS の POST はシステムにインストールされているベース(コンベンショナル)メモリ容量を検出します。

ベースメモリ容量は通常 512 K 搭載のマザーボードではシステム用に 512 K で、640 K 以上搭載のマザーボードではシステム用に 640 K となります。

Extended Memory

BIOS は POST 中に拡張メモリ容量を検出します。

これは CPU メモリアドレスマップ上で 1M バイト以上に位置する容量です。

Advanced BIOS Features

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

Advanced BIOS Features

▶ Hard Disk Boot Priority	[Press Enter]	Item Help
First Boot Device	[Floppy]	Menu Level ▶
Second Boot Device	[Hard Disk]	
Third Boot Device	[CDROM]	
Password Check	[Setup]	
# CPU Hyper-Threading	[Enabled]	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F3: Language (*) F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 3: Advanced BIOS Features

“#”ハイパースレッディングテクノロジー対応のIntel® Pentium® 4プロセッサが搭載されている場合は、システムにより自動検出されます。

🔑 Hard Disk Boot Priority

- ▶▶ Press Enter ハードディスク起動デバイスの優先順位を選択する

🔑 First / Second / Third Boot Device

- ⚙️ この機能は起動デバイスの優先順位を決定します。
- ▶▶ Floppy 起動用デバイスの優先順位でフロッピーを指定します。
 - ▶▶ LS120 起動用デバイスの優先順位で LS120 を指定します。
 - ▶▶ Hard Disk 起動用デバイスの優先順位でハードディスクを指定します。
 - ▶▶ CDROM 起動用デバイスの優先順位で CDROM を指定します。
 - ▶▶ ZIP 起動用デバイスの優先順位で ZIP を指定します。
 - ▶▶ USB-FDD 起動用デバイスの優先順位で USB-FDD を指定します。
 - ▶▶ USB-ZIP 起動用デバイスの優先順位で USB-ZIP を指定します。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

- ▶▶ USB-CDROM 起動用デバイスの優先順位で USB-CDROM を指定します。
- ▶▶ USB-HDD 起動用デバイスの優先順位で USB-HDD を指定します。
- ▶▶ LAN 起動用デバイスの優先順位で LAN を指定します。
- ▶▶ Disabled 起動用デバイスの優先順位で無効を指定します。

🔑 Password Check

- ▶▶ System プロンプト時に正しいパスワードが入力されない場合は、システムは起動せず、セットアップ画面も表示できません。
- ▶▶ Setup プロンプト時に正しいパスワードが入力されない場合は、システムは起動しますが、セットアップ画面は表示できません。
(デフォルト値)

🔑 CPU Hyper-Threading

- ▶▶ Enabled CPU のハイパースレッディング機能を有効にします。この機能はマルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作する点にご注意ください。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled CPU ハイパースレッディングを無効にします。

Integrated Peripherals

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

Integrated Peripherals

On-Chip Primary PCI IDE	[Enabled]	Item Help
On-Chip Secondary PCI IDE	[Enabled]	Menu Level ►
On-Chip SATA	[Auto]	If a hard disk
x SATA Port0 Configure as	SATA Port0	controller card is
SATA Port1 Configure as	SATA Port1	used, set at Disabled
USB Controller	[Enabled]	
USB 2.0 Controller	[Enabled]	[Enabled]
USB Keyboard Support	[Disabled]	Enable on-chip IDE
USB Mouse Support	[Disabled]	PORT
AC97 Audio	[Auto]	
Onboard H/W 1394 (*)	[Enabled]	[Disabled]
Onboard H/W LAN (*◆)	[Enabled]	Disable on-chip IDE
Onboard Serial Port 1	[3F8/IRQ4]	PORT
Onboard Serial Port 2	[2F8/IRQ3]	
UART Mode Select	[Normal]	
x UR2 Duplex Mode	Half	
Onboard Parallel Port	[378/IRQ7]	
Parallel Port Mode	[SPP]	
x ECP Mode Use DMA	3	
Game Port Address	[201]	
Midi Port Address	[330]	
Midi Port IRQ	[10]	
CIR Port Address	[Disabled]	
x CIR Port IRQ	11	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F3: Language (*) F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 4 : Integrated Peripherals

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

(◆)GA-8IPE1000-G用のみ。

☞ On-Chip Primary PCIIDE

- ▶▶ Enabled オンボードのプライマリチャンネル IDE のポートを有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled オンボードのプライマリチャンネル IDE のポートを無効にします。

☞ On-Chip Secondary PCI IDE

- ▶▶ Enabled オンボードのセカンダリチャンネル IDE のポートを有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled オンボードのセカンダリチャンネル IDE のポートを無効にします。

☞ On-chip SATA

- ▶▶ Disabled SATA コントローラを無効にします。
- ▶▶ Auto IDE1 や IDE2 にデバイスが接続されていない場合は、SATA コントローラは IDE コントローラに再マッピングされます。(デフォルト値)
- ▶▶ Manual SATA モードをマニュアルに設定します。

☞ SATA Port0 Configure as

- ▶▶ IDE Pri. Master SATA Port 0 を IDE プライマリマスタに再マッピングします。
- ▶▶ IDE Pri. Slave SATA Port 0 を IDE プライマリスレーブに再マッピングします。
- ▶▶ IDE Sec. Master SATA Port 0 を IDE セカンダリマスタに再マッピングします。
- ▶▶ IDE Sec. Slave SATA Port 0 を IDE セカンダリスレーブに再マッピングします。
- ▶▶ SATA Port 0 SATA コントローラを SATA port 0 に設定します。このモードは WinXP またはそれ以降の OS でのみサポートされます。(デフォルト値)
- ▶▶ SATA Port 1 SATA コントローラを SATA port 1 に設定します。このモードは WinXP またはそれ以降の OS でのみサポートされます。

☞ SATA Port1 Configure as

- ▶▶ 設定値は SATA Port 0 に依存します。

☞ USB Controller

- ▶▶ Enabled USB コントローラを有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled USB コントローラを無効にします。

🔑 USB 2.0 Controller

オンボードの USB 2.0 機能を使用されない場合は、この機能を無効にできます。

- ▶▶ Enabled USB 2.0 コントローラを有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled USB 2.0 コントローラを無効にします。

🔑 USB Keyboard Support

- ▶▶ Enabled USB キーボードサポートを有効にします。
- ▶▶ Disabled USB キーボードサポートを無効にします。(デフォルト値)

🔑 USB Mouse Support

- ▶▶ Enabled USB マウスサポートを有効にします。
- ▶▶ Disabled USB マウスサポートを無効にします。(デフォルト値)

🔑 AC97 Audio

- ▶▶ Auto オンボードの AC'97 オーディオ機能を有効にします。
(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

🔑 Onboard H/W 1394^(*)

- ▶▶ Enabled オンボード IEEE 1394 機能を有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

🔑 Onboard H/W LAN^(*)

- ▶▶ Enabled オンボードハードウェア LAN 機能を有効にします。
(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

🔑 Onboard Serial Port 1

- ▶▶ Auto BIOS は自動的に 1 番ポートアドレスを設定します。
- ▶▶ 3F8/IRQ4 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 3F8 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ 2F8/IRQ3 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 2F8 に設定します。
- ▶▶ 3E8/IRQ4 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 3E8 に設定します。

^(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

^(*)GA-8IPE1000-G 用のみ。

- ▶▶ 2E8/IRQ3 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 2E8 に設定します。
- ▶▶ Disabled オンボードシリアルポート 1 番を無効にします。

🔓 Onboard Serial Port 2

- ▶▶ Auto BIOS は自動的に 2 番ポートアドレスを設定します。
- ▶▶ 3F8/IRQ4 オンボードシリアルポート 2 番を有効にし、アドレスを 3F8 に設定します。
- ▶▶ 2F8/IRQ3 オンボードシリアルポート 2 番を有効にし、アドレスを 2F8 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ 3E8/IRQ4 オンボードシリアルポート 2 番を有効にし、アドレスを 3E8 に設定します。
- ▶▶ 2E8/IRQ3 オンボードシリアルポート 2 番を有効にし、アドレスを 2E8 に設定します。
- ▶▶ Disabled オンボードシリアルポート 2 番を無効にします。

🔓 UART Mode Select

(この項目でオンボード I/O チップの赤外線(IR)機能の設定を行います)

- ▶▶ ASKIR オンボード I/O チップ UART を ASKIR モードに設定します。
- ▶▶ IrDA オンボード I/O チップ UART を IrDA モードに設定します。
- ▶▶ Normal オンボード I/O チップ UART をノーマルモードに設定します。(デフォルト値)

🔓 UR2 Duplex Mode

- ▶▶ Half IR 機能半二重通信。(デフォルト値)
- ▶▶ Full IR 機能全二重通信。

🔓 Onboard Parallel port

- ▶▶ 378/IRQ7 オンボード LPT ポートを有効にし、アドレスを 378/IRQ7 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ 278/IRQ5 オンボード LPT ポートを有効にし、アドレスを 278/IRQ5 に設定します。
- ▶▶ Disabled オンボード LPT ポートを無効にします。
- ▶▶ 3BC/IRQ7 オンボード LPT ポートを有効にし、アドレスを 3BC/IRQ7 に設定します。

🔓 Parallel Port Mode

- ▶▶ SPP パラレルポートを標準パラレルポートとして使用します。(デフォルト値)
- ▶▶ EPP パラレルポートを拡張パラレルポートとして使用します。
- ▶▶ ECP パラレルポートを拡張機能ポートとして使用します。
- ▶▶ ECP+EPP パラレルポートを ECP および EPP モードで使用します。

 ECP Mode Use DMA

- ▶▶ 3 ECP モード使用 DMA を 3 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ 1 ECP モード使用 DMA を 1 に設定します。

 Game Port Address

- ▶▶ 201 ゲームポートアドレスを 201 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ 209 ゲームポートアドレスを 209 に設定します。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

 Midi Port Address

- ▶▶ 300 MIDI ポートアドレスを 300 に設定します。
- ▶▶ 330 MIDI ポートアドレスを 330 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

 Midi Port IRQ

- ▶▶ 5 MIDI ポートの IRQ を 5 に設定します。
- ▶▶ 10 MIDI ポートの IRQ を 10 に設定します。(デフォルト値)

 CIR Port Address

- ▶▶ 310 CIR ポートアドレスを 310 に設定します。
- ▶▶ 320 CIR ポートアドレスを 320 に設定します。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)

 CIR Port IRQ

- ▶▶ 5 CIR ポートの IRQ を 5 に設定します。
- ▶▶ 11 CIR ポートの IRQ を 11 に設定します。(デフォルト値)

Power Management Setup

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

Power Management Setup

ACPI Suspend Type	[S1(POS)]	Item Help
Power LED in S1 State	[Blinking]	Menu Level ►
Off by Power button	[Instant-Off]	[S1]
PME Event Wake Up	[Enabled]	Set suspend type to
ModemRingOn/WakeOnLan	[Enabled]	Power On Suspend under
Resume by Alarm	[Disabled]	ACPI OS
x Date (of Month) Alarm	Everyday	
x Time (hh:mm:ss)	0 0 0	[S3]
Power On By Mouse	[Disabled]	Set suspend type to
Power On By Keyboard	[Disabled]	Suspend to RAM under
x KB Power ON Password	Enter	ACPI OS
AC BACK Function	[Soft-Off]	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F3: Language (*) F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 5: Power Management Setup

🔑 ACPI Suspend Type

- ▶▶ S1 (POS) ACPI サスペンドタイプを S1 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ S3 (STR) ACPI サスペンドタイプを S3 に設定します。

🔑 Power LED in S1 state

- ▶▶ Blinking スタンドバイモード(S1)では、電源 LED が点滅します。(デフォルト値)
- ▶▶ Dual/OFF スタンドバイモード(S1)では:
 - a. 単一色の LED を使用している場合は、LED がオフになります。
 - b. 2色のLEDを使用している場合は、LEDが別の色に変わります。

🔑 Off by power button

- ▶▶ Instant-off 電源ボタンを押すと、すぐ電源をオフにします。(デフォルト値)
- ▶▶ Delay 4 Sec. 電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、電源オフになります。ボタン押す時間が 4 秒間未満の場合、サスペンドモードに入ります。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

🔓 PME Event Wake Up

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。
- ▶▶ Enabled PME イベントウェイクアップを有効にします。(デフォルト値)

🔓 Modem Ring On/Wake On LAN

- ▶▶ Disabled Modem Ring On / Wake On LAN 機能を無効にします。
- ▶▶ Enabled Modem Ring On / Wake On LAN 機能を有効にします。(デフォルト値)

🔓 Resume by Alarm

“Resume by Alarm”項目の設定で、入力した日付/時刻にシステム電源がオンになります。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Enabled アラーム機能を有効にすることで、電源オンにします。

RTC アラームによる電源オンが有効の場合。

アラーム日付(月): 日は 1 から 31

アラーム時刻(hh:mm:ss): (0~23):(0~59):(0~59)

🔓 Power On By Mouse

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Double Click PS/2 マウスの左ボタンをダブルクリックするとシステム電源がオンになります。

🔓 Power On By Keyboard

- ▶▶ Password キーボード電源オン機能のパスワードを 1-5 文字で入力してください。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Keyboard 98 “パワーキー”ボタンがキーボードにある場合は、そのキーを押すとシステム電源がオンになります。

🔓 KB Power ON Password

- ▶▶ Enter パスワード(1~5 文字の英数字)を入力し、Enter を押してキーボード電源オンパスワードを設定してください。

🔓 AC BACK Function

- ▶▶ Memory 電源のオン/オフは AC 停電直前の状態に依存します。
- ▶▶ Soft-Off AC 復帰の時は常にオフにします。(デフォルト値)
- ▶▶ Full-On AC 復帰の時は常にオンにします。

PnP/PCI Configurations

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

PnP/PCI Configurations

PCI 1/PCI 5 IRQ Assignment	[Auto]	Item Help
PCI 2 IRQ Assignment	[Auto]	Menu Level ►
PCI 3 IRQ Assignment	[Auto]	
PCI 4 IRQ Assignment	[Auto]	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F3: Language (*) F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 6:PnP/PCI Configurations

🔑 PCI 1/PCI 5 IRQ Assignment

- ▶▶ Auto PCI 1/PCI 5 へ IRQ を自動的に割当てます。
(デフォルト値)
- ▶▶ 3, 4, 5, 7, 9, 10, 11, 12, 14, 15 PCI 1/PCI 5 に IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を割当てます。

🔑 PCI 2 IRQ Assignment

- ▶▶ Auto PCI 2 へ IRQ を自動的に割当てます。(デフォルト値)
- ▶▶ 3, 4, 5, 7, 9, 10, 11, 12, 14, 15 PCI 2 に IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を割当てます。

🔑 PCI 3 IRQ Assignment

- ▶▶ Auto PCI 3 へ IRQ を自動的に割当てます。(デフォルト値)
- ▶▶ 3, 4, 5, 7, 9, 10, 11, 12, 14, 15 PCI 3 に IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を割当てます。

🔑 PCI 4 IRQ Assignment

- ▶▶ Auto PCI 4 へ IRQ を自動的に割当てます。(デフォルト値)
- ▶▶ 3, 4, 5, 7, 9, 10, 11, 12, 14, 15 PCI 4 に IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を割当てます。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

PC Health Status

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

PC Health Status

Reset Case Open Status	[Disabled]	Item Help
Case Opened	No	Menu Level ►
Vcore	OK	[Disabled]
DDR25V	OK	Don't reset case
+3.3V	OK	open status
+5V	OK	
+12V	OK	[Enabled]
Current CPU Temperature	40°C	Clear case open
Current CPU FAN Speed	6490 RPM	status at next boot
Current POWER FAN Speed (*)	0 RPM	
Current SYSTEM FAN Speed	0 RPM	
CPU Warning Temperature	[Disabled]	
CPU FAN Fail Warning	[Disabled]	
POWER FAN Fail Warning (*)	[Disabled]	
SYSTEM FAN Fail Warning	[Disabled]	
CPU Smart FAN Control (*)	[Enabled]	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F3: Language (*) F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 7: PC Health Status

Reset Case Open Status

Case Opened

ケースが固定されている場合、“Case Opened”は“No”と表示されます。

ケースが開放されている場合、“Case Opened”は“Yes”と表示されます。

“Case Opened”の値をリセットするには、“Reset Case Open Status”を“Enabled”に設定して CMOS に保存し、コンピュータを再起動させます。

Current Voltage (V) Vcore / DDR25V / +3.3V / +5V / +12V

▶ システム電圧状態を自動検出します。

Current CPU Temperature

▶ CPU 温度を自動検出します。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G用のみ。

🔗 Current CPU/POWER^(*)/SYSTEM FAN Speed (RPM)

- ▶▶ CPU/電源^(*)/システムファン速度状態を自動検出します。

🔗 CPU Warning Temperature

- ▶▶ 60°C / 140°F CPU 監視温度が 60°C / 140°F に達すると警告します。
- ▶▶ 70°C / 158°F CPU 監視温度が 70°C / 158°F に達すると警告します。
- ▶▶ 80°C / 176°F CPU 監視温度が 80°C / 176°F に達すると警告します。
- ▶▶ 90°C / 194°F CPU 監視温度が 90°C / 194°F に達すると警告します。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)

🔗 CPU FAN Fail Warning

- ▶▶ Disabled ファン警告機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Enabled ファン警告機能を有効にします。

🔗 POWER FAN Fail Warning^(*)

- ▶▶ Disabled ファン警告機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Enabled ファン警告機能を有効にします。

🔗 SYSTEM FAN Fail Warning

- ▶▶ Disabled ファン警告機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Enabled ファン警告機能を有効にします。

🔗 CPU Smart FAN Control^(*)

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。
- ▶▶ Enabled CPU スマートファン制御機能を有効にします。(デフォルト値)
 - a. CPU 温度が摂氏 60 度を超えると、CPU ファンは高速回転します。
 - b. CPU の温度が 50～60 度の場合には CPU ファンは高速で動作します。
 - c. CPU の温度が 40～50 度の場合には CPU ファンは中速で動作します。
 - d. CPU 温度が摂氏 40 度未満の時は、CPU ファンは低速回転します。

^(*)GA-8IPE1000 Pro-G用のみ。

Frequency/Voltage Control

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

Frequency/Voltage Control

CPU Clock Ratio	[15X]	Item Help
CPU Host Clock Control	[Disabled]	Menu Level ►
※ CPU Host Frequency (Mhz)	100	
※ AGP/PCI/SRC Fixed	66/33/100	
Memory Frequency For	[Auto]	
Memory Frequency (Mhz)	266	
AGP/PCI/SRC Frequency (Mhz)	66/33/100	
AGP OverVoltage Control	[Normal]	
DIMM OverVoltage Control	[Normal]	
CPU Voltage Control	[Normal]	
Normal CPU Vcore	1.4750V	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F3: Language (*) F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 8: Frequency/Voltage Control

※ これらの項目は“CPU Host Clock Control”が有効になっているときに使用可能です。

🔧 CPU Clock Ratio

CPU レシオを固定で使用している場合は、この選択項目は表示されないか、使用不能となります。

▶▶ 15X~21X CPU クロックレシオに依存します。

この項目は CPU 検出により自動設定されます。

C-ステッピング P4 の場合: 8X, 10X~24X デフォルト: 15X

Northwood CPU の場合: 12X~24X デフォルト: 16X

CPU レシオが変更できない場合は“固定”と表示され、リードオンリーとなります。

GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

☞ CPU Host Clock Control

注：システムが CMOS セットアップユーティリティ起動前にハングアップした場合は、20 秒間の再起動タイムアウト時間を待ってください。タイムアウトが起これば、システムはリセットされ、CPU はデフォルトホストクロックに戻って再起動します。

- ▶ Disabled CPU ホストクロック制御を無効にします。(デフォルト値)
- ▶ Enabled CPU ホストクロック制御を有効にします。

☞ CPU Host Frequency

▶ 100MHz ~ 355MHz CPU ホストクロックを 100MHz から 355MHz の間に設定します。FSB 400 Pentium 4 プロセッサをご使用の場合は、“CPU Clock”を 100MHz に設定してください。FSB533 Pentium 4 プロセッサをご使用の場合は、“CPU Clock”を 133MHz に設定してください。FSB800 Pentium 4 プロセッサをご使用の場合は、“CPU Clock”を 200MHz に設定してください。

間違った設定はシステムの故障の原因となります。パワーユーザーのみ操作してください！

☞ AGP/PCI/SRC Fixed

シリアル ATA 装置は SRC クロックに敏感に反応します。SRC のオーバークロックにより、シリアル ATA 装置が正常に動作しないことがあります。

- ▶ AGP/PCI/SRC クロックを CPU と非同期に調整してください。

☞ Memory Frequency For

FSB (フロントサイドバス)クロック=400MHz の場合、

- ▶ 2.66 メモリクロック=ホストクロック X 2.66。
- ▶ Auto メモリクロックを DRAM SPD データによって設定します。(デフォルト値)

FSB (フロントサイドバス)クロック=533MHz の場合、

- ▶ 2.0 メモリクロック=ホストクロック X 2.0。
- ▶ 2.5 メモリクロック=ホストクロック X 2.5。
- ▶ Auto メモリクロックを DRAM SPD データによって設定します。(デフォルト値)

FSB (フロントサイドバス)クロック=800MHz の場合、

- ▶ 2.0 メモリクロック=ホストクロック X 2.0。
- ▶ 1.6 メモリクロック=ホストクロック X 1.5。
- ▶ 1.33 メモリクロック=ホストクロック X 1.33。
- ▶ Auto メモリクロックを DRAM SPD データによって設定します。(デフォルト値)

🔑 Memory Frequency (Mhz)

- ▶▶ 数値は CPU ホストクロック(MHz)に依存します。

🔑 AGP/PCI/SRC Frequency (Mhz)

- ▶▶ この設定値は固定された AGP/PCI/SRC クロックに依存します。

🔑 AGP OverVoltage Control

- ▶▶ Normal AGP 過電圧制御を通常設定にします。(デフォルト値)
- ▶▶ +0.1V AGP 過電圧制御を+0.1V に設定します。
- ▶▶ +0.2V AGP 過電圧制御を+0.2V に設定します。
- ▶▶ +0.3V AGP 過電圧制御を+0.3V に設定します。

🔑 DIMM OverVoltage Control

- ▶▶ Normal DIMM 過電圧制御を通常設定にします。(デフォルト値)
- ▶▶ +0.1V DIMM 過電圧制御を+0.1V に設定します。
- ▶▶ +0.2V DIMM 過電圧制御を+0.2V に設定します。
- ▶▶ +0.3V DIMM 過電圧制御を+0.3V に設定します。

🔑 CPU Voltage Control

- ▶▶ 調整可能な CPU Vcore 0.8375V から 1.7600V に対応。
(デフォルト値: ノーマル)

🔑 Normal CPU Vcore

- ▶▶ CPU Vcore 電圧を表示します。

Select Language (*)

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

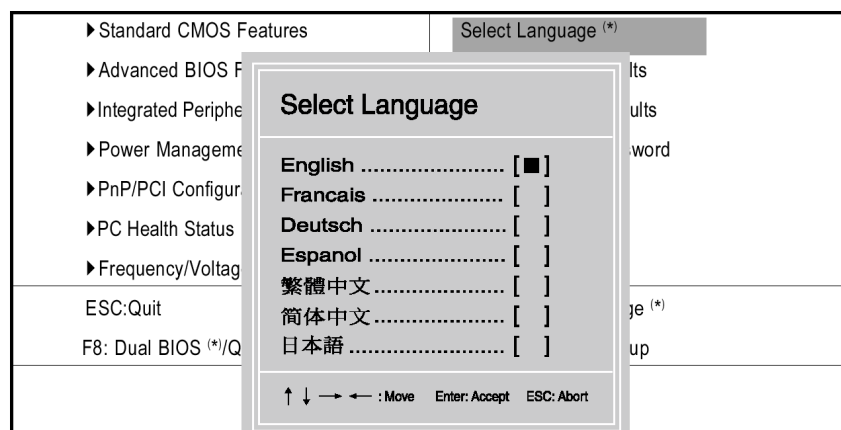


図 9: Select Language

Select Language

マルチ言語は以下の 7 言語に対応しています。英語、日本語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、簡体字中国語、繁体字中国語です。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G用のみ。

Load Fail-Safe Defaults

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

▶Standard CMOS Features	Select Language (*)
▶Advanced BIOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶Integrated Peripherals	Load Optimized Defaults
▶Power Management	
▶PnP/PCI Configurations	Load Fail-Safe Defaults? (Y/N)?Y
▶PC Health Status	Save & Exit Setup
▶Frequency/Voltage Control	Exit Without Saving
ESC:Quit	F3: Change Language (*)
F8: Dual BIOS (*)/Q-Flash	F10:Save & Exit Setup
Load Fail-Safe Defaults	

図 10 : Load Fail-Safe Defaults

Load Fail-Safe Defaults

Fail-Safe defaults はシステムパラメータの最適値で構成され、システムに最低限の性能で動作します。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G用のみ。

Load Optimized Defaults

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

▶Standard CMOS Features	Select Language (*)
▶Advanced BIOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶Integrated Peripherals	Load Optimized Defaults
▶Power M	Load Optimized Defaults? (Y/N)?Y
▶PnP/PCI	
▶PC Health Status	Save & Exit Setup
▶Frequency/Voltage Control	Exit Without Saving
ESC:Quit	F3: Change Language (*)
F8: Dual BIOS (*)/Q-Flash	F10:Save & Exit Setup
Load Optimized Defaults	

図 11: Load Optimized Defaults

Load Optimized Defaults

この設定を選択すると、BIOS の出荷時デフォルト値およびシステムが自動検知するチップセット機能がロードされます。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G用のみ。

Set Supervisor/User Password

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

▶Standard CMOS Features	Select Language (*)
▶Advanced BIOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶Integrated Peripherals	Load Optimized Defaults
▶Power Management Setup	Enter Password:
▶PnP/PCI Configurations	
▶PC Health Status	Save & Exit Setup
▶Frequency/Voltage Control	Exit Without Saving
ESC:Quit	F3: Change Language (*)
F8: Dual BIOS (*)/Q-Flash	F10: Save & Exit Setup
Change/Set/Disable Password	

図 12: Password Setting

この機能を選択すると、画面中央に以下のメッセージが表示され、パスワード作成のヒントを提供します。

最大8文字のパスワードをキー入力し、<Enter>を押します。パスワードの確認を求められます。パスワードを再度キー入力し、<Enter>を押します。<Esc>を押すと設定は中断され、パスワード入力を中止します。

パスワードを無効にするには、パスワード入力を求められた時点で<Enter>を押します。“パスワードが無効になりました”というメッセージが表示され、パスワード無効を確認します。パスワードが無効になると、システムが起動し、いつでもセットアップが可能となります。

BIOS セットアッププログラムには異なる 2 つのパスワードが使用できます。

SUPERVISOR PASSWORD および USER PASSWORD です。無効にすると、誰でも BIOS セットアッププログラム機能が使用できます。有効にすると、BIOS セットアッププログラムの設定欄全てを表示するには管理者パスワード、基本項目のみ表示するにはユーザーパスワードの入力が必要となります。

詳細 BIOS 機能メニュー内の“Password Check”で“System”を選ぶと、システム再起動のたびまたはセットアップに入るたびに、パスワード入力が必要されます。

詳細 BIOS 機能メニュー内の“Password Check”で“Setup”を選ぶと、セットアップに入るときのみパスワード入力が必要されます。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

Save & Exit Setup

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

▶Standard CMOS Features	Select Language (*)
▶Advanced BIOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶Integrated Peripherals	Load Optimized Defaults
▶Power Management Setup	Set Supervisor Password
▶PnP/PCI Configurations	
▶PC Health Status	
▶Frequency/Voltage Control	Exit Without Saving
ESC:Quit	F3: Change Language (*)
F8: Dual BIOS (*)/Q-Flash	F10:Save & Exit Setup
Save Data to CMOS	

図 13: Save & Exit Setup

“Y”を入力すると、ユーザー設定値を RTC CMOS に保存し、セットアップユーティリティを終了します。

“N”を入力すると、セットアップユーティリティに戻ります。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

Exit Without Saving

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

▶Standard CMOS Features	Select Language (*)
▶Advanced BIOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶Integrated Peripherals	Load Optimized Defaults
▶Power Management Setup	Quit Without Saving (Y/N)? N
▶PnP/PCI Configurations	
▶PC Health Status	Save & Exit Setup
▶Frequency/Voltage Control	Exit Without Saving
ESC:Quit	F3: Change Language (*)
F8: Dual BIOS (*)/Q-Flash	F10:Save & Exit Setup
Abandon all Data	

図 14 : Exit Without Saving

“Y”を入力すると、ユーザー設定値を RTC CMOS に保存せずにセットアップユーティリティを終了します。

“N”を入力すると、セットアップユーティリティに戻ります。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

日本語

[illegible]

第 4 章 技術情報

@BIOS™ 紹介

Gigabyte が@BIOS を発表します

Windows BIOS ライブアップデートユーティリティ



BIOS 更新をご自分で行ったことがおありですか？または BIOS は何かは知っていても更新するのは躊躇する、大勢の一人かもしれません？理由としては、最新の BIOS への更新は不必要であると感じたり、実際の更新方法がわからない、などがあります。

または一般とは異なり、BIOS 更新の経験が豊富で、多くの時間を費やしておられるかもしれません。当然、これを頻繁に行うことはお望みではないでしょう。まず個々の BIOS をウェブサイトからダウンロードし、オペレーティングシステムを DOS モードにします。それから個々のフラッシュユーティリティを使って BIOS を更新します。これらのプロセスは面白い作業ではありません。さらに、BIOS の誤った更新では悪夢となりますから、BIOS ソースコードはディスクに注意して保存する必要があります。

確かに、皆さんはマザーボードベンダーがなぜ面倒な BIOS 更新操作の時間と労力を省く何かいい方法を考え出さないのか、いぶかしく思っておられるでしょう？ここでは実現したのです！ここで Gigabyte は初の Windows BIOS ライブアップデートユーティリティである@BIOS を発表いたします。これはスマートな BIOS 更新用のソフトウェアです。これで BIOS はインターネット経由でダウンロードおよび更新が行われます。他の BIOS 更新ソフトウェアとは異なり、これは Windows ユーティリティです。"@BIOS"のおかげで、BIOS 更新はクリックひとつで OK です。

さらに、ご使用のマザーボードがいずれの Gigabyte 製品であっても@BIOS が BIOS のメンテナンスを行います。当ユーティリティはご使用のマザーボードのモデルを正確に検知し、それに合った BIOS を選択します。それから BIOS が最寄の Gigabyte の ftp サイトから自動的にダウンロードされます。ここで幾つかの方法が選択可能です。"Internet Update"を利用して BIOS のダウンロードと更新を直接行うこともできます。または、現在の BIOS のバックアップを保存したい場合は"Save Current BIOS"を選んで先に保存することもできます。Gigabyte の@BIOS を利用してお持ちの BIOS 更新をスマートに行えます。これで誤った BIOS 更新の心配はなくなり、BIOS のメンテナンスと管理が容易になります。再度、Gigabyte の画期的製品はマザーボード業界で一つの里程碑を打ち立てました。

このすばらしいソフトウェアの費用はどれほどでしょうか？信じられません！無料なのです！Gigabyte 製マザーボードをお買い求めになると、付属のドライバ CD 内にこの画期的ソフトウェアが収録されています。ただし、Gigabyte @BIOS からのインターネット BIOS 更新には、まずインターネット接続が必要であることをお忘れなく。

EasyTune™ 4 紹介

Gigabyte が EasyTune™ 4 を発表します Windows ベースのオーバクロッキング ユーティリティ

EasyTune 4 は将来の世代へと引き継いでいくため、財産を伝えます。



“オーバークロック”はコンピュータ分野でもっとも人気のある話題の一つです。ですが、大勢のユーザーがトライしたことがあるのでしょうか？答えおそらく“ない”というものです。というのは、“オーバークロック”はとても困難で多くの技術的なノウハウが関係していると考えられ、時には“オーバークロック”は少数の熱狂的支持者が用いる特殊技術であるとまで考えられています。“オーバークロック”のエキスパートに関しての実情はどうでしょうか？その多くは“オーバークロック”に多くの時間とお金をかけて勉強し、種々のハードウェアや BIOS ツールで行っています。これらの技術をもってしても、“オーバークロック”システムの安全度と安定性は未知なのでかなりのリスクがあると見られています。ここで Gigabyte から Windows ベースのオーバークロックユーティリティである“EasyTune 4”を発表することで、全ては変わります。この Windows ベースのユーティリティにより、“オーバークロック”の扱い方は根本から変わります。これは通常およびパワーユーザーの両方にふさわしい、初の Windows ベースのユーティリティです。ユーザーは都合に応じてオーバークロックの“イーजीモード”と“アドバンスドモード”が選択できます。“イーजीモード”を選んだ場合、“自動最適化”をクリックするだけで自動的に CPU のオーバークロックが行われます。次に当ソフトウェアにより、上昇させた CPU クロックは自動的にコントロールパネル上にその結果が表示されます。ユーザー手動で“オーバークロック”を行うのを希望するのであれば、他の選択肢もあります。“アドバンスドモード”をクリックすると、“スポーツドライブ”タイプのオーバークロックユーザーインターフェースが楽しめます。“アドバンスドモード”により、ユーザーはシステムバス/ AGP /メモリ動作クロックを小刻みに調節して、最高のシステムパフォーマンスを得ることができます。これは Gigabyte 製マザーボードと協調します。さらに、通常のオーバークロック方法とは異なり、EasyTune 4 ではユーザーによる BIOS およびハードウェア切替またはジャンパー設定は不要です。即ち、“オーバークロック”が簡単なステップで行えます。ソフトウェアやハードウェアの変更がありませんから、これがより安全な“オーバークロック”の方法といえます。ユーザーが EasyTune 4 を実行して、システムの限界を超えた場合でも、最大の損失はコンピュータの再起動のみで、その他副作用は良く抑制されます。さらに EasyTune 4 により最適化されたシステムクロックに成功した場合、ユーザーはこの設定を“保存”し、次回“ロード”することが可能です。確かに Gigabyte EasyTune 4 は“オーバークロック”技術を次世代のものに変化させました。この素晴らしいソフトウェアは Gigabyte 製マザーボードをお買い求めになると、付属のドライバ CD 内にこの画期的ソフトウェアが無料で収録されています。ユーザーは“EasyTune 4”を実行してみ、さらに驚くべき機能をご自分で確かめられます。

Gigabyte製品のあるものは“EasyTune 4”でサポートされていません。ウェブサイトのサポート対象製品リストをご参照ください。

“オーバークロック動作”はユーザー側のリスク責任で行われるもので、Gigabyte Technology はプロセッサ、マザーボード、その他コンポーネントの損傷や不安定な動作に関する責任は負いかねます。

Face-Wizard™ ユーティリティのインストール(*)

Face-Wizard™って何？

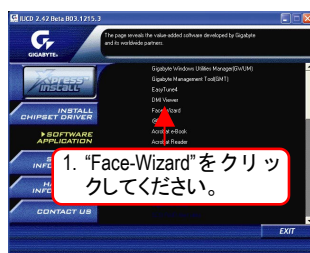
Face-Wizard™は Windows ベースの使いやすいユーティリティです。システムの起動時に表示されるロゴをウェブ上にある Gigabyte のロゴギャラリーから取得して変更したり、オリジナル画像で代用することができます。

どのように動作しますか？

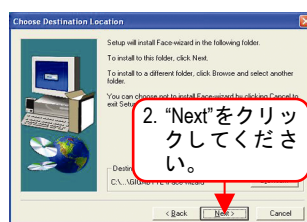
Face-Wizard™はオンボード BIOS やハードドライブ、フロッピーディスク、ZIP、MO、その他の保存デバイスのファイルを選択し、これらをあわせて好きな画像を BIOS に設定することができます。それだけではなく、Face-Wizard™は Windows モードで BIOS 更新を行う際のアシストも提供します。

Face-Wizard™を使う利点とは？

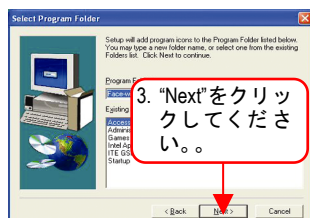
独自の起動ロゴを作成することができるため、味気ない白黒起動画面を見ることはありません。



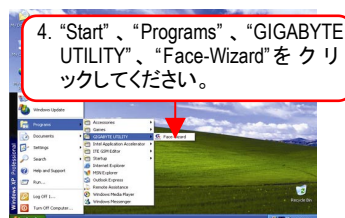
(1)



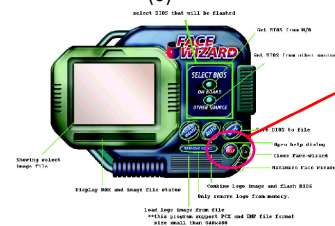
(2)



(3)



(4)



(5)

5. "Help"をクリックしてください。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

BIOS のフラッシュ方法の説明

方法 1: デュアル BIOS^(*)/Q-Flash

A. Dual BIOS[™] 技術って何？

Dual BIOS では、マザーボード上にメイン BIOS とバックアップ BIOS という 2 つのシステム BIOS(POM)が搭載されています。通常は、メイン BIOS を利用してシステムを動作します。メインボード BIOS が破壊されたりして利用できない場合、システムの電源がオンになっている間に、バックアップ BIOS を利用してシステムを動作します。つまり、BIOS には何もなかったかのように、PC が正常に作動することとなります。

B. Dual BIOS と Q-Flash ユーティリティの使い方は？

- a. コンピュータの電源をオンにし、パワーオンセルフテスト(POST)が開始されたら直ちにキーを押し、AWARD BIOS SETUP に入ってください。そして、<F8>を押して FLASH ユーティリティを起動します。

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

▶Standard CMOS Features	Select Language (*)
▶Advanced BIOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶Integrated Peripherals	Load Optimized Defaults
▶Power Management Setup	Set Supervisor Password
▶PnP/BIOS	Enter Dual BIOS (*)/Q-Flash Utility (Y/N)? Y
▶PC Health Status	
▶Frequency/Voltage Control	Exit without Saving
ESC:Quit	F3: Change Language (*)
F8: Dual BIOS (*)/Q-Flash	F10: Save & Exit Setup
Time, Date, Hard Disk Type...	

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

b. Award Dual BIOS Flash ROM プログラミングユーティリティ

Dual BIOS Utility V1.30		
Boot From.....	Main Bios	
Main ROM Type/Size.....	SST 49LF003A	512K
Backup ROM Type/Size.....	SST 49LF003A	512K
Wide Range Protection	Disable	
Boot From	Main Bios	
Auto Recovery	Enable	
Halt On Error	Disable	
Keep DMI Data	Enable	
Copy Main ROM Data to Backup		
Load Default Settings		
Save Settings to CMOS		
Q-Flash Utility		
Update Main BIOS from Floppy		
Update Backup BIOS from Floppy		
Save Main BIOS to Floppy		
Save Backup BIOS to Floppy		
PgDn/PgUp: Modify	↑↓: Move	ESC: Reset F10: Power Off

c. Dual BIOS アイテムの説明:

Wide Range Protection: Disable (Default), Enable

状態 1:

メイン BIOS に故障が発生した場合(ESCD の更新失敗、チェックサムエラーやリセットなど)、電源が入り、オペレーションシステムが読み込まれる直前に、Wide Range Protection が“Enable”に設定されていると、PC がバックアップ BIOS から起動します。

状態 2:

ユーザーがシステムに変更を加えた後、周辺機器カード(SCSI カードや LAN カードなど...)の ROM BIOS がシステム再起動の要求を発した場合、起動 BIOS はバックアップ BIOS へ変更されます。

Boot From: Main BIOS (Default), Backup BIOS

状態 1:

起動する BIOS をメイン BIOS/バックアップ BIOS から選択することができます。

状態 2:

どちらかの BIOS が利用できないとき、本アイテム“Boot From :Main BIOS (Default)”は淡色表示になり変更できません。

Auto Recovery: Enable (Default), Disable

2つの BIOS のどちらかにチェックサムエラーが生じたとき、エラーでない BIOS が自動的にエラーの生じた BIOS を回復します。

(BIOS 設定:Power Management Setup(電源管理セットアップ)で ACPI Suspend Type(ACPI サスペンドの種類)が Suspend to RAM(サスペンドから RAM)のとき、本項目は自動的に Enable(有効)になります。)

(BIOS 設定に入りたい場合は、起動画面が表示されたら“Del”キーを押してください。)

Halt On Error: Disable (Default), Enable

BIOS にチェックサムエラーが生じたとき、またはメイン BIOS にワイドレンジ保護エラー(WIDE RANGE PROTECTION error)が生じたとき、Halt On Error が Enable に設定されている場合に、PC はシステム起動時にメッセージが表示され、ユーザーの指示を待つ状態で一時停止します。

Auto Recovery の場合: Disabled、<or the other key to continue>と表示されます。

Auto Recovery の場合: Enable、<or the other key to Auto Recover>と表示されます。

Keep DMI Data: Disable (Default), Enable

有効: DMI データは新しい BIOS の書き込みで置き換えられません。(推奨)

無効: DMI データは新しい BIOS の書き込みで置き換えられます。

Copy Main ROM Data to Backup

(ハングアップ ROM から起動のとき、バックアップ ROM データからメインへのコピーに変更されます)

オートルికバリーメッセージ:

BIOS Recovery: Main to Backup

メイン BIOS が正常に作動し、自動的にバックアップ BIOS を復元します。

BIOS Recovery: Backup to Main

バックアップ BIOS が正常に作動し、自動的にメイン BIOS を復元します。(このオートルికバリーユーティリティはシステムにより自動設定され、ユーザーによる変更はできません。)

Load Default Settings

dual BIOS の既定値を読み込みます。

Save Settings to CMOS

修正した設定を保存します。



DualBIOS™テクノロジーの FAQ

GIGABYTE Technology、システム BIOS2 つ搭載した画期的なデュアル BIOS 技術を発表しました。GIGABYTE から長いシリーズの革新により、このマザーボードで最新の“付加価値”機能が実現されました。今後の GIGABYTE マザーボードに搭載される予定です。

DualBIOS™って何？

DualBIOS を搭載した GIGABYTE マザーボードには、2 つの BIOS チップが用意されています。単純明快に、ひとつを“メイン BIOS”、もうひとつを“バックアップ BIOS (ホットスペア)”と呼ぶことにします。メイン BIOS にエラーが発生すると、ほぼ自動的にバックアップ BIOS が作動してシステムが起動されます。ほぼ自動的に、そして時間のロスもなく交換が行われます！トラブルが BIOS の書き換え失敗であっても、ウィルスや致命的なメイン BIOS チップの破壊などであっても、結果は同じです。バックアップ BIOS がほぼ自動的にシステムを保護してくれます。

I. Q : DualBIOS™技術はどのように働くのですか？

答:

DualBIOS 技術は Giga-Byte Technology による特許技術です。システム復旧を簡単に、短時間で実現します。DualBIOS™テクノロジーは、簡単に言えば 2 つの BIOS (ROM) が 1 つのマザーボードに統合されている技術です。ひとつはメイン BIOS、もうひとつはバックアップ BIOS です。メイン BIOS にエラーなど問題が生じたとき、自動的にバックアップ BIOS を使ってシステムを起動することができます。PC はメイン BIOS が破壊される前と全く同じ状態で作動し、ユーザーは何の変化なく PC を使用することができます。

II. Q: なぜ DualBIOS™ テクノロジーの必要性があるのでしょうか？

答:

現在、BIOS は多くの脅威に直面しています。ウィルスの攻撃や BIOS アップデートの失敗、BIOS の ROM 自体に問題が生じることもあります。

1. システム BIOS を攻撃し、破壊してしまう新しいコンピュータウィルスが発見されています。こうしたウィルスは、BIOS コードを破壊し、PC を不安定にさせたり、正常な起動ができなくなったりします。
2. 電源のロス、変動などが起きたり、ユーザーがシステムをリセットしたり、システム BIOS 更新中に電源が切れたりした場合も、BIOS データが破壊されることがあります。
3. また、ユーザーが不当な BIOS ファイルで誤ってメインボードを更新した場合、システムは正常に起動できない場合があります。このような操作は、操作中や起動時にシステムをフリーズさせる原因となります。
4. フラッシュ ROM の寿命は電気性質により制限されます。最新の PC はプラグ&プレイ BIOS を搭載しており、定期的に更新されるようになっています。頻繁に周辺機器を変更される場合は、フラッシュ ROM に破損をきたすことがあります。

Giga-Byte Technology の特許取得済み DualBIOS™ 技術は、起動時のフリーズや BIOS データの損失などを最小限にとどめることができます。この新技術により BIOS のエラーのためのシステムダウンや修理費用などを解決することができます。

III. Q: DualBIOS™ 技術はどのように働くのですか？

答:

1. DualBIOS™ 技術は、起動過程における幅広い保護を提供します。POST 中、ESCD 更新、そして PnP 検出/割当において BIOS を保護することができます。
2. DualBIOS™ は BIOS の自動復元を提供します。起動時に使われる最初の BIOS が完了できない場合、または BIOS チェックサムエラーが発生した場合でも、起動は可能です。DualBIOS™ ユーティリティでは、メイン BIOS またはバックアップ BIOS の破損時に、“オートリカバリー” オプションが DualBIOS™ 技術を使って正常な BIOS を起動させ、破壊した BIOS を自動的に修復することが保証できます。
3. DualBIOS™ は BIOS の手動復元を提供します。DualBIOS™ 技術には内蔵書き換えユーティリティが含まれており、バックアップからメインへ、またはその逆にシステム BIOS を書き換えることができます。OS のユーティリティプログラムを使用する必要はありません。
4. DualBIOS™ には一方向への書き換えユーティリティが含まれています。内蔵の一方向フラッシュユーティリティは、破壊された BIOS が誤って正しい BIOS と認識され、正しい BIOS(メインまたはバックアップ)を書き換えてしまわないよう保護します。こうして、正しい BIOS が失われることを防ぎます。

IV. Q: どんな場合に DualBIOS™ テクノロジーが必要なのでしょうか？**答:**

1. コンピュータウィルスが威力を増している今日、どのユーザーにも DualBIOS™ 技術は必要です。
システム BIOS を破壊してしまう新しい BIOS タイプのウィルスは毎日のように発見されています。市販されているウィルス除去プログラムなど大部分は、このタイプのウィルスに対する保護を含んでいません。そこで、DualBIOS™ 技術があなたの PC を保護するための唯一のソリューションを提供します:
状況 I.) 悪質なコンピュータウィルスがシステム BIOS 全体を消去してしまうことがあります。これまでの単一システム BIOS PC の場合、PC を修理に出さなければ正常な操作はできません。
状況 II.) DualBIOS™ ユーティリティで“オートリカバリー”オプションが有効に設定されていれば、ウィルスがシステム BIOS を破壊した場合でも、BIOS は自動的にシステムを再起動し、メイン BIOS を修復することができます。
状況 III.) ユーザーはメインシステム BIOS からの起動を上書きすることができます。バックアップ BIOS からの起動順序を手動で変更するために、DualBIOS™ ユーティリティに入ることができます。
2. BIOS の更新中または更新後に DualBIOS™ がメイン BIOS の破損を検出した場合、自動的にバックアップ BIOS が代わって起動に使用されます。更に、起動時にメインとバックアップ BIOS のチェックサムを確認します。DualBIOS™ 技術はシステム起動時にメイン BIOS とバックアップ BIOS のチェックサムを確認し、BIOS が正しく作動するよう図ります。
3. ベテランユーザーも 2 つの BIOS バージョンを持つメインボードを大いに活用することができます。システム性能に合ったバージョンの BIOS を選択して使用することができます。
4. PC やワークステーション/サーバーにより高い柔軟性を提供します。DualBIOS™ ユーティリティでは、“Halt On When BIOS Defects”のオプションを選択し、メイン BIOS が破壊された場合に警告メッセージと共にシステムを停止するよう設定することができます。ほとんどのワークステーション/サーバーは、サービス機能を損なわないよう安定した継続的な運営が必要となります。この場合、正常な起動時にシステムが停止しないよう、“Halt On When BIOS Defects”メッセージは無効となります。更に、Giga-Byte の DualBIOS™ 技術は、今後 BIOS 用の追加容量が必要になった場合、デュアル 2M ビット BIOS からデュアル 4Mbit BIOS への更新が可能となる機能も提供しています。



BIOS のフラッシュ方法の説明

Q-Flash™はフラッシュ ROM に組み込まれた BIOS フラッシュユーティリティです。当ユーティリティにより、ユーザーが BIOS を更新する際は、ただ BIOS メニューから操作できます。Q-Flash™により BIOS のフラッシュ操作が DOS や Windows 上のユーティリティなしで行えます。Q-Flash™は BIOS メニュー内にありますから、オペレーティングシステムやその他複雑な操作手順などが不要になります。



注意

BIOS の更新はある程度リスクを伴うので注意深く行ってください！
ユーザー皆様の BIOS 更新の誤操作に伴うシステムの障害に関しては
Gigabyte Technology Co., Ltd は責任を負いかねますこと、ご容赦ください。

操作の準備:

Q-Flash™により BIOS 更新を始める前に、以下の手順に従ってください。

1. Gigabyte のウェブサイトから、ご使用のマザーボード用の最新の BIOS をダウンロードします。
2. ダウンロードされた BIOS を展開し、フロッピーディスクに BIOS ファイル(モデル名.Fxx という形式、例:7VRXP.F12)を保存します。
3. ご使用の PC を再起動し、**Del** を押して BIOS メニューに入ります。

以下の BIOS 更新の手順は 2 つのパートに分かれています。

お持ちのマザーボードがデュアル BIOS 装備の場合は、パート I をご参照ください。

お持ちのマザーボードが単一の BIOS 装備の場合は、パート II をご参照ください。

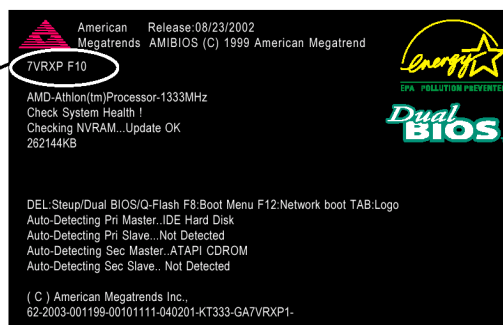
パート I:

デュアル BIOS マザーボードでの Q-Flash™ を利用して、BIOS を更新。

Gigabyte 製マザーボードにはデュアル BIOS を装備しているものがあります。Q-Flash™ およびデュアル BIOS をサポートするマザーボードでの BIOS の場合、Q-Flash™ ユーティリティおよびデュアル BIOS ユーティリティは同一画面に表示されます。当セクションでは Q-Flash™ ユーティリティの操作方法のみを説明します。

以下のセクションでは GA-7VRXP を参考例として、BIOS フラッシュ動作で古いバージョンから新しいバージョンへの更新方法をご案内します。例えば F10 から F12 への更新というようにです。

更新前の BIOS ファイルは F10

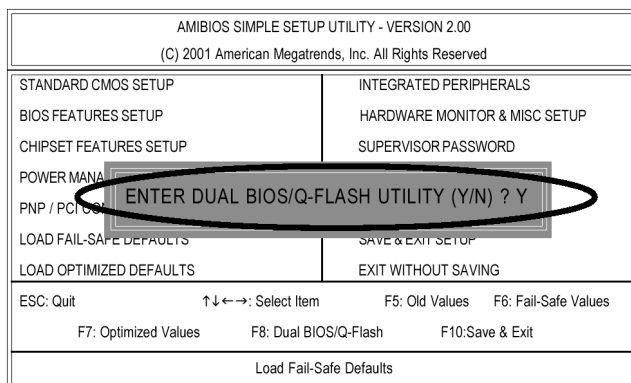


Q-Flash™ ユーティリティに入る:

ステップ 1: Q-Flash™ ユーティリティの使用には、起動画面で Del を押し BIOS メニューに入ってください。

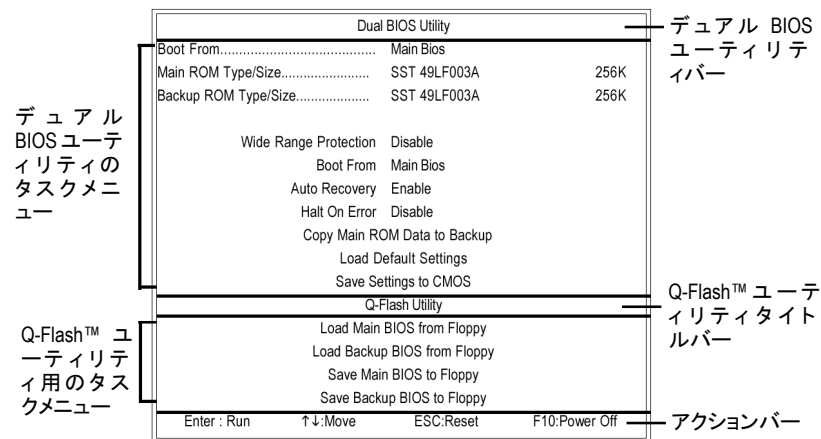
AMIBIOS SIMPLE SETUP UTILITY - VERSION 2.00 (C) 2001 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved	
STANDARD CMOS SETUP	INTEGRATED PERIPHERALS
BIOS FEATURES SETUP	HARDWARE MONITOR & MISC SETUP
CHIPSET FEATURES SETUP	SUPERVISOR PASSWORD
POWER MANAGEMENT SETUP	USER PASSWORD
PNP / PCI CONFIGURATION	IDE HDD AUTO DETECTION
LOAD FAIL-SAFE DEFAULTS	SAVE & EXIT SETUP
LOAD OPTIMIZED DEFAULTS	EXIT WITHOUT SAVING
ESC: Quit ↑↓←→: Select Item F5: Old Values F6: Fail-Safe Values	
F7: Optimized Values	F8: Dual BIOS/Q-Flash
Load Fail-Safe Defaults	
F10: Save & Exit	

ステップ 2 : キーボード上の F8 ボタンを押し、次に Y キーを押し Q-Flash™ ユーティリティに入って下さい。



Q-Flash™/デュアル BIOS ユーティリティ画面の説明

Q-Flash™/デュアル BIOS ユーティリティ画面は以下の主要コンポーネントから構成されています。



デュアル BIOS ユーティリティのタスクメニュー:

ここには 8 種のタスクおよび 2 項目で、BIOS の ROM タイプの情報を表示します。タスクをポイントして **Enter** キーを押すと、そのタスクが実行されます。

Q-Flash™ ユーティリティ用のタスクメニュー:

4 種のタスクが含まれます。タスクをポイントして **Enter** キーを押すと、そのタスクが実行されます。

アクションバー:

Q-Flash™/デュアル BIOS ユーティリティの操作に必要な 4 種の操作名が含まれます。記述されているキーをキーボードから押すことで操作が実行されます。

Q-Flash™ ユーティリティの使用:

このセクションでは Q-Flash™ ユーティリティを利用して BIOS を更新する方法が説明されています。全述の“操作の準備”セクションで説明されているように、ご使用のマザーボード用の BIOS ファイルを保存したフロッピーを用意し、これをコンピュータに入れる必要があります。フロッピーディスクをコンピュータに入れ、Q-Flash™ ユーティリティに入ったなら、以下の手順で BIOS のフラッシュを実行します。

ステップ:

1. キーボードの矢印キーで、Q-Flash™ メニュー内の“Load Main BIOS from Floppy”をハイライト表示させ、そして **Enter** ボタンを押します。



現在の BIOS をバックアップ目的で保存するには、“Save Main BIOS to Floppy”の項目を選択して、ステップ 1 から始めます。

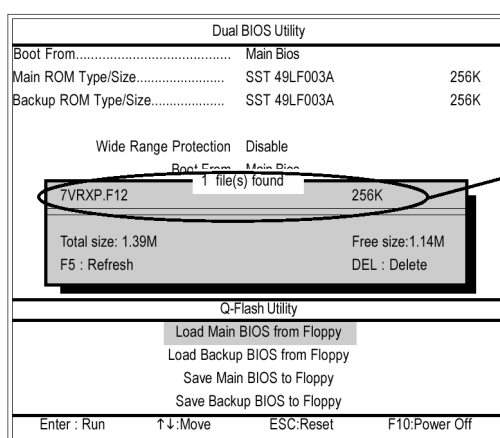
Dual BIOS Utility			
Boot From.....	Main Bios		
Main ROM Type/Size.....	SST 49LF003A	256K	
Backup ROM Type/Size.....	SST 49LF003A	256K	
Wide Range Protection Disable			
Boot From Main Bios			
Auto Recovery Enable			
Halt On Error Disable			
Copy Main ROM Data to Backup			
Load Default Settings			
Save Settings to CMOS			
Q-Flash Utility			
Load Main BIOS from Floppy			
Load Backup BIOS from Floppy			
Save Main BIOS to Floppy			
Save Backup BIOS to Floppy			
Enter : Run	↑↓:Move	ESC:Reset	F10:Power Off

次に、フロッピーディスクにダウンロードされた BIOS ファイルがポップアップボックスに表示されます。

2. フラッシュ対象の BIOS ファイルを指定し Enter を押します。
この例では、フロッピーディスクにダウンロードしたファイルはただ 1 つなので、7VRXP.F12 のみが表示されています。

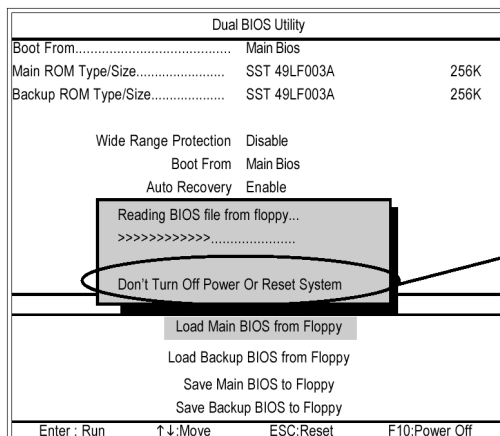


ご使用のマザーボードに合った BIOS ファイルであることを再度確認してください。



フロッピーディスク内の BIOS ファイル。

Enter を押すと、フロッピーディスクからの BIOS ファイル読み込み状況が表示されます。

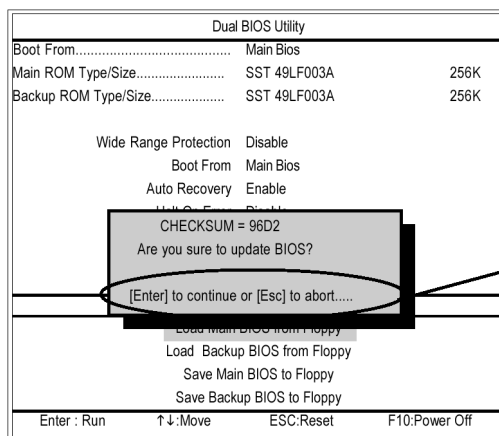


この段階でコンピュータの電源をオフにしたり、リセットしたりしないでください！



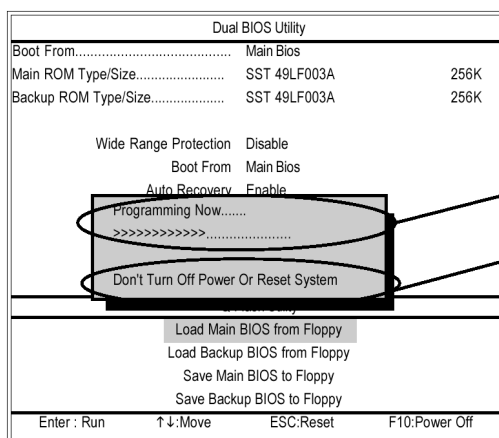
BIOS フラッシュ中にフロッピーディスクを取り出さないでください。

BIOS ファイル読み込みが完了すると、“Are you sure to update BIOS?”というダイアログボックスが確認を促します。



BIOS 更新を続行する場合は“Enter”、キャンセルする場合は“ESC”を押します。

3. BIOS 更新を行うには Y キーを押します。
これで BIOS 更新が始まります。BIOS 更新状況が表示されます。



BIOS 更新状況

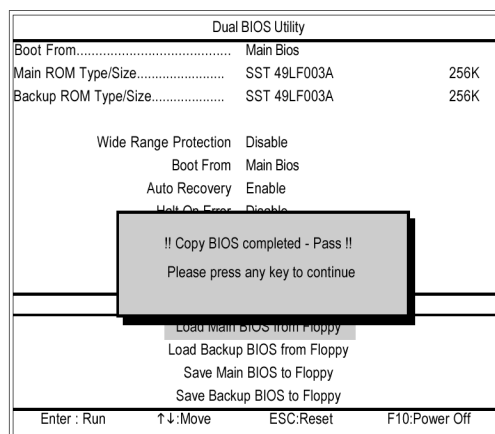


注意
BIOS ROM の損傷を防ぐため、この段階でのコンピュータの電源オフやリセットは行わないでください！



注意 BIOS フラッシュ中にフロッピーディスクを取り出さないでください。

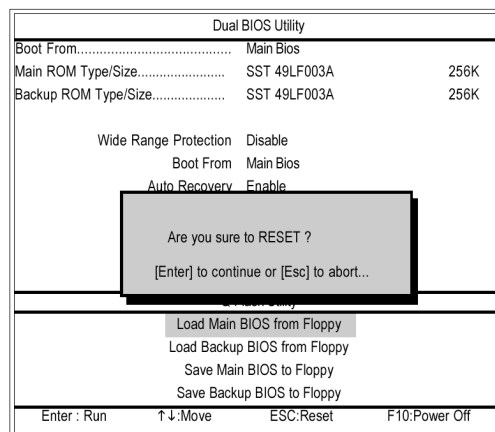
4. BIOS 更新操作が完了したら、キーボード上の任意のキーを押すと、Q-Flash™メニューに戻ります。



バックアップ BIOS のフラッシュにはステップ 1-4 を繰り返します。

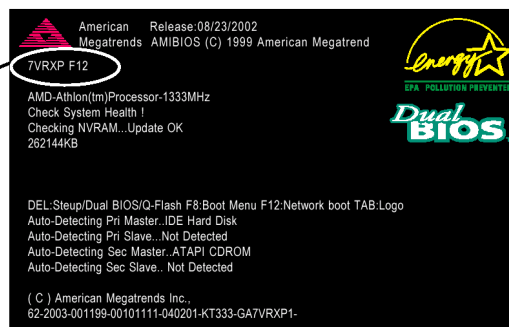
注

5. Q-Flash™ユーティリティを終了するには **ESC**、次に **Y** キーを押します。
Q-Flash™終了後、コンピュータは自動的に再起動します。



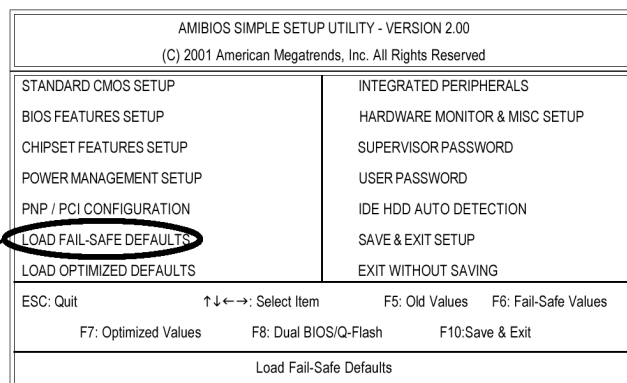
システム再起動後、起動画面上でフラッシュ後の BIOS バージョンが表示されます。

更新後 BIOS ファイルは F12 となっています



注 下図は AMI BIOS メニューの画面です。ただし、AWARD BIOS メニューでも同様の項目が表示されます。

- システム再起動後、**Del** を押して、BIOS メニューに入ります。BIOS メニューから **Load Fail-Safe Defaults** の項目を選び、**Enter** を押すと BIOS 安全デフォルト値がロードされます。通常、システムは BIOS 更新後に、既存のデバイスを皆再検出します。それで BIOS 更新後は、BIOS デフォルト値をロードしなおすよう強くお勧めします。



キーボードから **Enter** を押します。

キーボードから Y キーを押して、デフォルト値をロードします。

AMIBIOS SIMPLE SETUP UTILITY - VERSION 2.00 (C) 2001 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved	
STANDARD CMOS SETUP	INTEGRATED PERIPHERALS
BIOS FEATURES SETUP	HARDWARE MONITOR & MISC SETUP
CHIPSET FEATURES SETUP	SUPERVISOR PASSWORD
POWER MANAGEMENT	
PNP / PCI CONFIGURATION	
LOAD FAIL-SAFE DEFAULTS	SAVE & EXIT SETUP
LOAD OPTIMIZED DEFAULTS	EXIT WITHOUT SAVING
ESC: Quit ↑↓←→: Select Item F5: Old Values F6: Fail-Safe Values	
F7: Optimized Values F8: Dual BIOS/Q-Flash F10: Save & Exit	
Load Fail-Safe Defaults	

7. **Save & Exit Setup** の項目を選んで、設定を CMOS に保存し BIOS メニューを終了します。BIOS メニューを終了すると、システムは再起動します。これで全部の手順は完成です。

キーボードから Y キーを押して、保存して終了してください。

AMIBIOS SIMPLE SETUP UTILITY - VERSION 2.00 (C) 2001 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved	
STANDARD CMOS SETUP	INTEGRATED PERIPHERALS
BIOS FEATURES SETUP	HARDWARE MONITOR & MISC SETUP
CHIPSET FEATURES SETUP	SUPERVISOR PASSWORD
POWER MANAGEMENT	
PNP / PCI CONFIGURATION	
LOAD FAIL-SAFE DEFAULTS	SAVE & EXIT SETUP
LOAD OPTIMIZED DEFAULTS	EXIT WITHOUT SAVING
ESC: Quit ↑↓←→: Select Item F5: Old Values F6: Fail-Safe Values	
F7: Optimized Values F8: Dual BIOS/Q-Flash F10: Save & Exit	
Load Fail-Safe Defaults	

パート II:

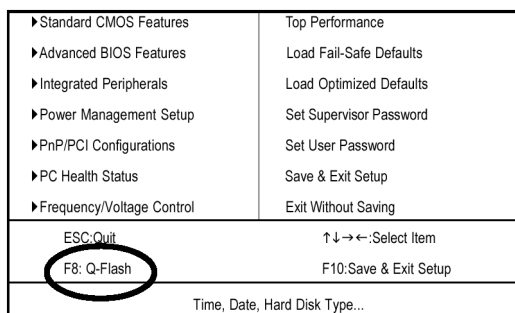
単一の BIOS のマザーボード上での Q-Flash™ユーティリティを利用して、BIOS を更新。

この部分では単一の BIOS のマザーボードで Q-Flash™ユーティリティを利用して BIOS を更新する方法が示されています。

Q-Flash™ユーティリティに入る:

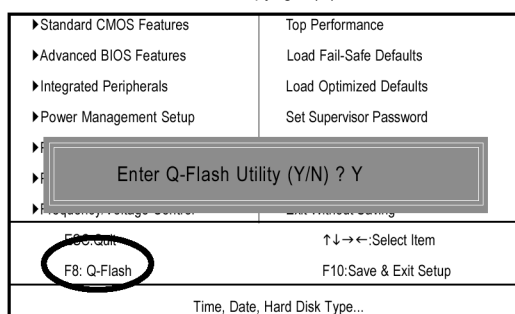
ステップ 1 : Q-Flash™ユーティリティの使用には、起動画面で **Del** を押して、BIOS メニューに入ってください。

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2002 Award ソフトウェア



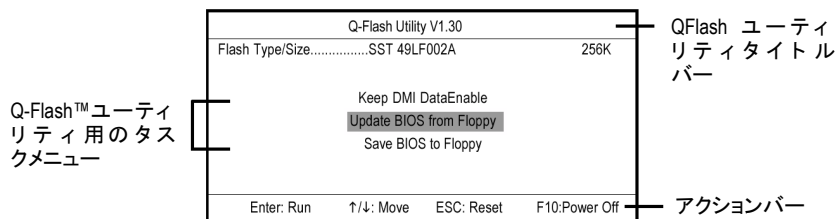
2. キーボード上の **F8** ボタンを押し、次に **Y** キーを押して Q-Flash™ユーティリティに入ります。

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2002 Award ソフトウェア



Q-Flash™ユーティリティに入る

Q-Flash™ BIOS ユーティリティ画面は以下の主要コンポーネントから構成されています。



Q-Flash™ユーティリティ用のタスクメニュー：3 種のタスクが含まれます。タスクをポイントして **Enter** キーを押すと、そのタスクが実行されます。

アクションバー：Q-Flash™ユーティリティの操作に必要な 4 種の操作名が含まれます。記述されているキーをキーボードから押すことで操作が実行されます。

Q-Flash™ユーティリティの使用：

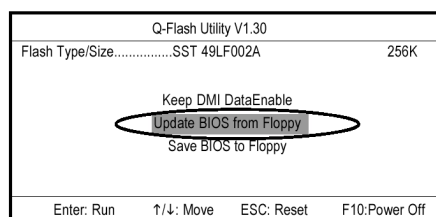
このセクションでは Q-Flash™ユーティリティを利用して BIOS を更新する方法が説明されています。全述の“操作の準備”セクションで説明されているように、ご使用のマザーボード用の BIOS ファイルを保存したフロッピーを用意し、これをコンピュータに入れる必要があります。フロッピーディスクをコンピュータに入れ、Q-Flash™ユーティリティに入ったなら、以下の手順で BIOS のフラッシュを実行します。

ステップ：

1. キーボードの矢印キーで、Q-Flash™メニュー内の“Load Main BIOS from Floppy”をハイライト表示させ、そして **Enter** ボタンを押します。



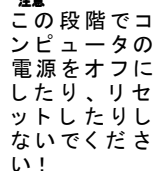
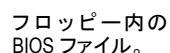
注 現在の BIOS をバックアップ目的で保存するには、**Save Main BIOS to Floppy** の項目を選択して、ステップ 1 から始めます。



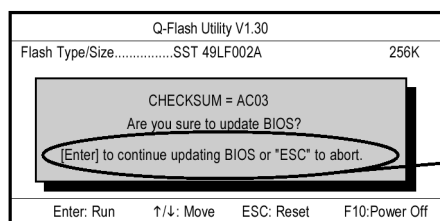
この例では、フロッピーディスクにダウンロードしたファイルはただ1つなので、8GE800.F4 のみが表示されています。

2. フラッシュ対象の BIOS ファイルをハイライト表示させ、キーボードの Enter キーを押すと、フロッピーから BIOS ファイルが読み込まれます。

ご使用のマザーボードに合った BIOS ファイルであることを再度確認してください。

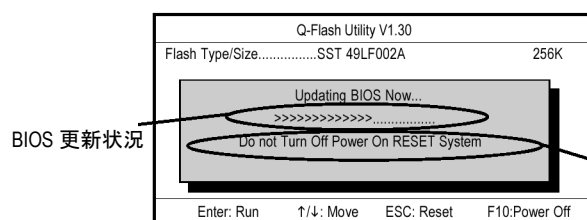


BIOS ファイル読み込みが完了すると、“Are you sure to update BIOS?”
というダイアログボックスが確認を促します。



BIOS 更新を続行する場合は“Enter”、キャンセルする場合は“ESC”を押します。

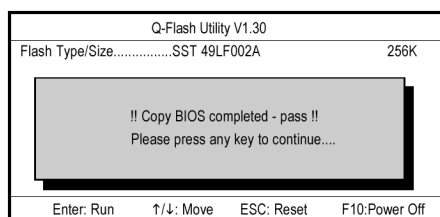
3. BIOS 更新を行うには Y キーを押します。
これで BIOS 更新が始まります。BIOS 更新状況が即時表示されます。



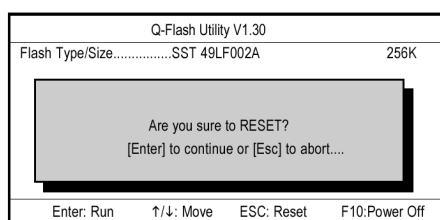
BIOS 更新状況

この段階でコンピュータの電源をオフにしたり、リセットしたりしないでください！

4. BIOS 更新操作が完了したら、キーボード上の任意のキーを押すと、Q-Flash™メニューに戻ります。



5. Q-Flash™ユーティリティを終了するには ESC、次に Enter キーを押します。
システムが再起動します。

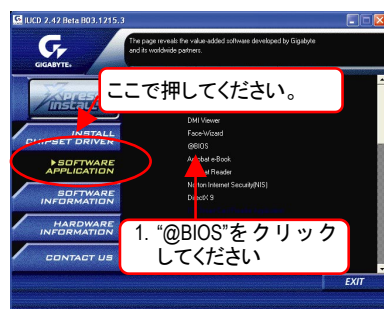


6. システム再起動後、Del を押して BIOS メニューに入り、BIOS Fail-Safe Defaults (BIOS 安全デフォルト値) をロードしてください。BIOS Fail-Safe Defaults のロード方法はパート I のステップ 6-7 をご参照ください。

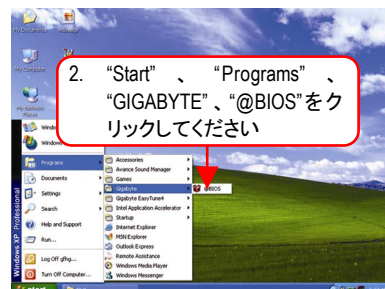
これで完了です！これで BIOS 更新に成功しました！

方法 2: @ BIOS ユーティリティ

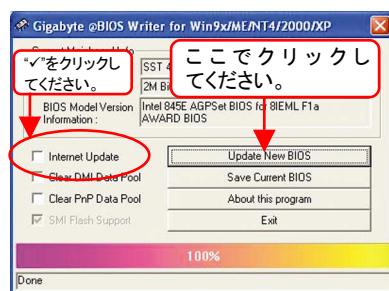
DOS 起動ディスクをお持ちでない場合は、Gigabyte @BIOS™プログラムを利用して BIOS フラッシュを行うようお勧めします。



(1)



(2)



(3)



(4)

方法と手順:

1. インターネット経由で BIOS を更新
 - a. "Internet Update"アイコンをクリックします
 - b. "Update New BIOS" アイコンをクリックします
 - c. @BIOS™ サーバを選びます
 - d. ご使用のマザーボードの正確なモデル名を選択します
 - e. システムは BIOS のダウンロードと更新を自動的に行います。

- II. インターネットを経由しないで BIOS を更新:
 - a. “Internet Update”アイコンをクリックしないでください
 - b. “Update New BIOS”アイコンをクリックします
 - c. ファイルを開ける際には、ダイアログボックスから“All Files”を選びます。
 - d. インターネットやその他の方法からダウンロードした BIOS の非圧縮ファイル(例: 8IPE1000 Pro-G.F1)を見出してください。
 - e. 続く指示に従って更新操作を完了させます。
 - III. BIOS の保存
最初の段階でダイアログボックスに“Save Current BIOS”アイコンが表示されます。これは現在使用中のバージョンの BIOS を保存することを意味します。
 - IV. サポートされているマザーボードおよびフラッシュ ROM の確認:
最初の段階でダイアログボックスに“About this program”アイコンが表示されます。これはサポートされるマザーボードとフラッシュ ROM メーカーの確認に役立ちます。
- 注:
- a. 方法 I で、選択すべきマザーボードのモデル名が 2 つ以上表示される場合には、ご使用のマザーボードのモデル名を再確認してください。間違ったモデル名を選択すると、システムが起動不能となります。
 - b. 方法 II では、BIOS 非圧縮ファイルのマザーボードのモデル名が実際にご使用のマザーボードと一致していることをご確認ください。一致しないと、システムは起動しません。
 - c. 方法 I で、必要な BIOS ファイルが@BIOS™サーバ内に見つからない場合は、Gigabyte ウェブサイトからダウンロードし、方法 II で更新してください。
 - d. 更新途中に中断すると、システム起動が不能になる点にご注意ください



2-4-/6-/8-チャンネルオーディオ機能紹介

Windows 98SE/2K/ME/XP 上でのインストールはとても簡単です。以下のステップに従って機能をインストールしてください！

ステレオスピーカー接続および設定:

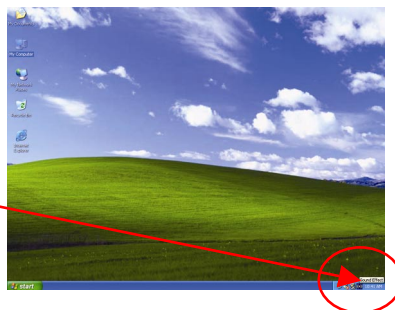
ステレオ出力を利用する場合、最良のサウンド効果を得るにはアンプ付きスピーカーの使用をお勧めします。

ステップ 1:
ステレオスピーカーまたはヘッドホンを“ライン出力”に接続します。

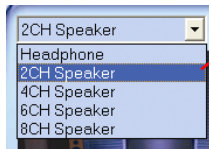


ライン出力

ステップ 2:
サウンドドライバを手順に従ってインストールすると、タスクバーの右下にサウンドアイコンが表示されます。アイコンをクリックして機能を選びます。



ステップ 3:
“スピーカー設定”をクリックし、左側の選択バーをクリックして、“2チャンネルスピーカー”を選び、2チャンネルオーディオ設定を完了させます。



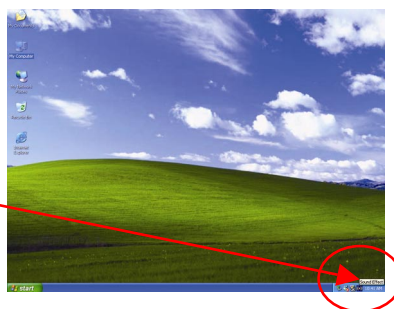
4 チャンネルアナログオーディオ出力モード

ステップ 1:
フロントチャンネルは“ライン出力”に、リアチャンネルは“ライン入力”に接続します。

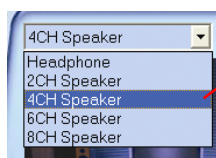


ライン出力 ライン入力

ステップ 2:
サウンドドライバを手順に従ってインストールすると、タスクバーの右下にサウンドイフェクト アイコンが表示されます。アイコンをクリックして機能を選びます。



ステップ 3:
“スピーカー設定”をクリックし、“UAJ 機能”を選択します。そして左側の選択バーをクリックして、“4 チャンネルスピーカー”を選び、4 チャンネルオーディオ設定を完了させます。



6 チャンネルアナログオーディオ出力モード

オーディオ出力の接続には、他のモジュールを追加せず後部オーディオパネルのみを使用します。

ステップ 1:

フロントチャンネルは“ライン出力”に、リアチャンネルは“ライン入力”に、センター/サブウーファーチャンネルは“マイク入力”に接続します。

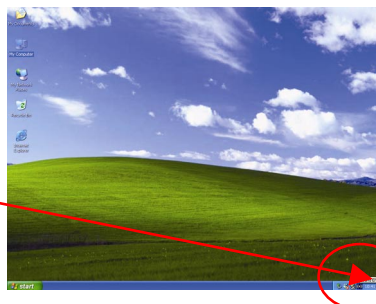
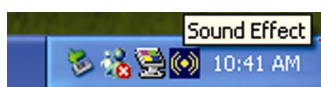


ライン入力

マイク入力 ライン出力

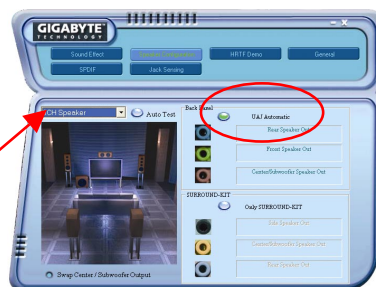
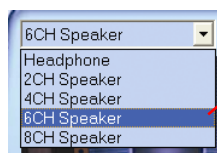
ステップ 2:

サウンドドライバを手順に従ってインストールすると、タスクバーの右下にサウンドアイコンが表示されます。アイコンをクリックして機能を選びます。



ステップ 3:

“スピーカー設定”をクリックし、“UAJ 機能”を選択します。そして左側の選択バーをクリックして、“6 チャンネルスピーカー”を選び、6 チャンネルオーディオ設定を完了させます。



8 チャンネルオーディオのセットアップ(オプション 装置のオーディオコンボキットを使用)

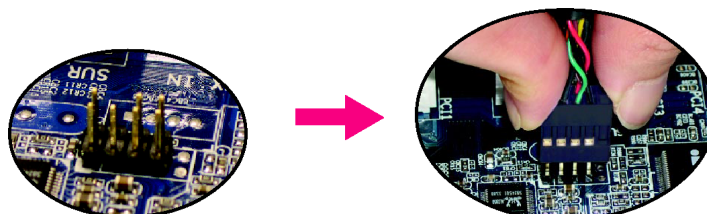
(オーディオコンボキットには SPDIF 出力、光信号及び同軸ケーブル出力及びサラウンドキットが提供されています。サラウンドキットには左右サラウンド、センター/サブウーファー及びリアサラウンド出力が提供されています。)



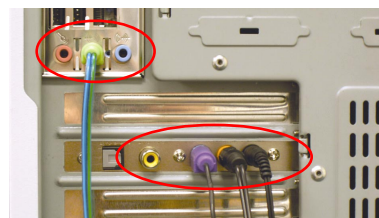
ステップ 1:
オーディオコンボキットをケース後部パネルに固定します。



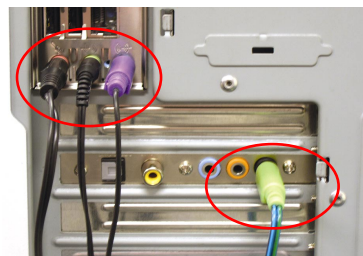
ステップ 2:
サラウンドキットをマザーボードの SUR_CEN コネクタに接続します。



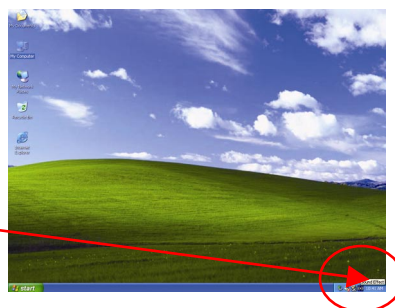
ステップ 3:
8 チャンネルのオーディオ設定方法は 2 通りあります。
方法 1:
フロントチャンネルはオーディオパネルの "LINE OUT" に、リアチャンネルはサラウンドキットの "REAR R/L" ポートに接続します。センター/サブウーファーチャンネルはサウンドキットの "SUB CENTER" に、左右のチャンネルはサラウンドキットの "SUR BACK" ポートに接続します。



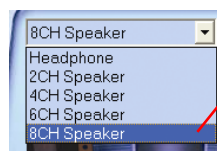
方法 2:
フロントチャンネルはオーディオパネル上の“LINE OUT”ポートに、リアチャンネルは“LINE IN”に接続します。センター/サブウーファーチャンネルはオーディオパネルの“MIC IN”ポートに、左右のチャンネルはサウンドキットの“SUR BACK”ポートに接続します。(この方法には UAJ 機能が必要です。)



ステップ 4:
サウンドドライバを手順に従ってインストールすると、タスクバーの右下にサウンドアイコンが表示されます。アイコンをクリックして機能を選びます。



ステップ 5:
“スピーカー設定”をクリックし、“UAJ 機能”及び“サウンドキットのみ”を選びます。そして左側の選択バーをクリックして、“8 チャンネルスピーカー”を選び、8 チャンネルオーディオ設定を完了させます。



サウンド効果の設定:
サウンド効果メニューで、お望みのサウンド設定項目が調整可能です。



SPDIF 出力デバイス(オプションデバイス)

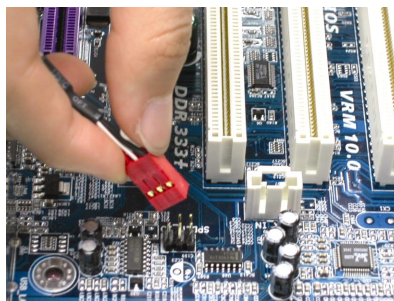
“SPDIF 出力”デバイスがマザーボード上で使用可能です。リアブラケット付きケーブルが装備され、“SPDIF 出力”コネクタに接続できます(図参照)。デコーダーへの接続用に、リアブラケットには同軸ケーブルおよび光ファイバーコネクタポートが装備されています。



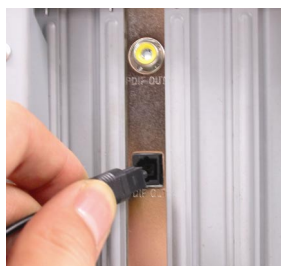
1. SPDIF 出力デバイスを PC のリアブラケットに装着し、ネジ止めします。



2. SPDIF デバイスをマザーボードに接続します。



3. SPDIF から SPDIF デコーダーに接続します。



Jack-Sensing(UAJ)紹介

Jack-Sensingはオーディオコネクタにエラー検知機能を付与しています。



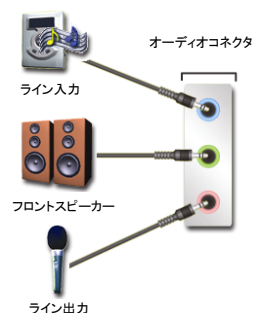
注意

Windows 98/98SE/2000/ME 環境で Jack-Sensing 機能を有効にするには、まず Microsoft DirectX8.1 またはそれ以降のバージョンをインストールしてください。

Jack-Sensing は2部分から構成されています：自動とマニュアルです。以下は2チャンネルを例としています(Windows XP)：

オーディオコネクタの紹介

CDROM, ウォークマンやその他オーディオ入力デバイスをライン入力ジャックに、スピーカー、ヘッドホンその他オーディオ出力デバイスをライン出力ジャックに、マイクはマイク入力ジャックに接続します。



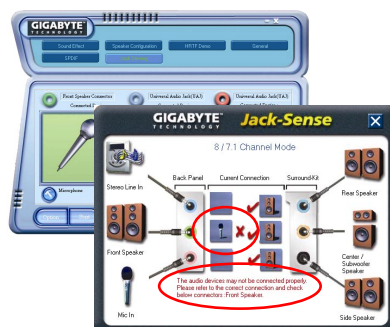
自動検知：

デバイスを上記の正しい組合せで接続します。デバイスを正しく接続した場合、ウィンドウにも正しく図示されます。

3D オーディオ入力が存在する時のみ 3D オーディオ機能が表示される点にご注意ください。

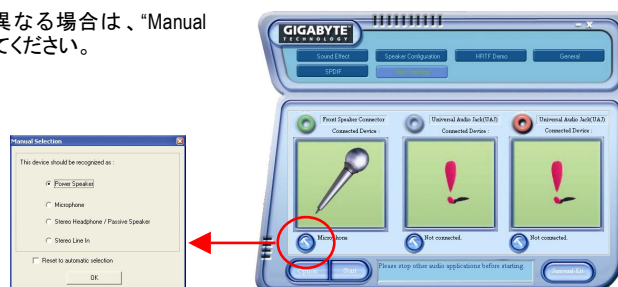


コネクタへの接続に誤りがある場合、右図の様に警告メッセージが表示されます。



マニュアル設定:

デバイスの図が設定と異なる場合は、“Manual Selection”を押して設定してください。

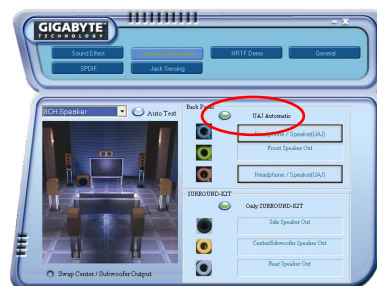


UAJ 紹介

UAJ (Universal Audio Jack)はとてもスマートな機能です：ユーザーがオーディオデバイスを間違ったジャックに差しても、信号は自動的に切替えます(ライン入力/ライン出力)。これはオーディオデバイスをライン入力のライン出力のどちらに差すか、ユーザーは心配せずに済むことを意味しています。UAJが有効の場合はデバイスは問題なく動作します。

UAJ 機能を有効にする:

“UAJ 自動設定”ボタンをクリックすると、UAJ機能が有効となります。



Xpress Recovery 紹介

Xpress Recovery とは？

Xpress Recovery ユーティリティは OS パーティションのバックアップおよび復旧用のユーティリティです。ハードディスクドライブが正しく動作しない場合、トルもとの状態に戻せることができます。



注意

1. サポートされている形式は FAT16、FAT32、NTFS です。
2. ハードディスクは IDE1 マスタに接続されている必要があります。
3. インストール可能な OS は一つのみです。
4. HPA 対応の IDE ハードディスクを使用する必要があります。
5. 第 1 パーティションが起動パーティションとして設定されている必要があります。起動パーティションをバックアップする際には、そのサイズを変更しないでください。
6. Ghost を利用して起動マネージャを NTFS 形式に復旧させたことがある場合は、Xpress Recovery の使用はお勧めしません。



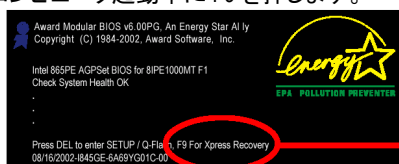
注

1. システムデータおよびハードディスクの読み書き速度はバックアップ速度に影響します。
2. OS、ドライバ、およびアプリケーションのインストール後すぐに Xpress Recovery をインストールするようお勧めします。

Xpress Recovery の使用方法

Xpress Recovery ユーティリティ起動方法は 2 通りあります。(下図参照)

1. テキストモード: コンピュータ起動中に F9 を押します。
コンピュータ起動中に F9 を押します。



F9 で Xpress Recovery 起動

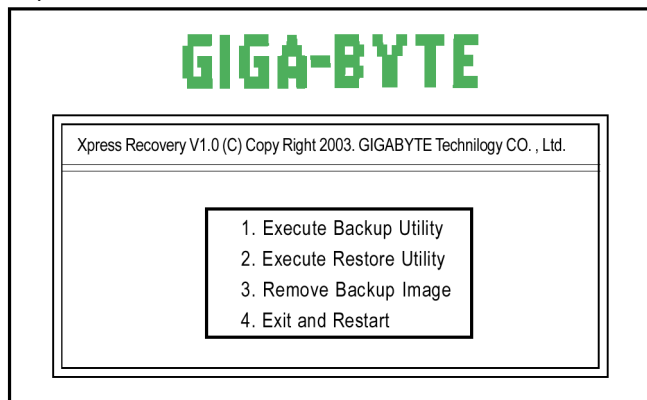
2. BMP モード: CD-ROM からの起動
“Advanced BIOS”設定メニューを表示させ、CD-ROM からの起動を設定し、保存後 BIOS メニューを終了します。画面下部に“Boot from CD:”が表示されたなら、マザーボードドライバ CD をコンピュータのドライブに入れ、何かキーを押すと Xpress Recovery が起動します。



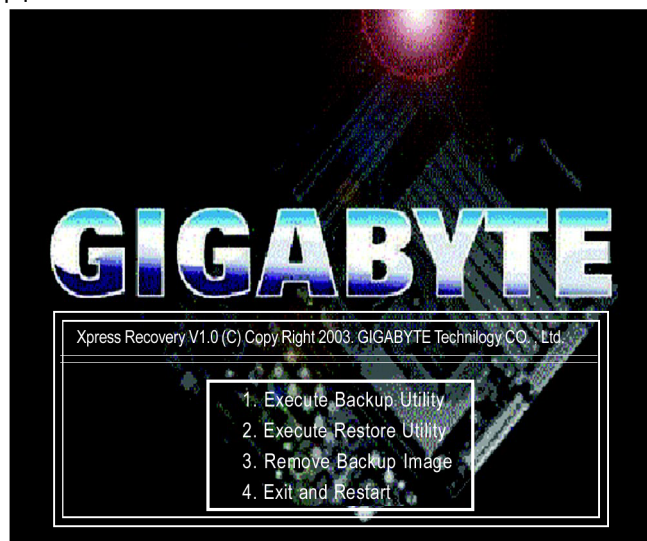
CD から起動:

キーボード上の矢印キーで項目をハイライト表示させ、Enter キーでメニューに入ることができます。

テキストモード：



BMP モード：



CD-ROM からの起動で Xpress Recovery を起動したことがある場合は、起動画面で F9 を押しても BMP モードが表示されます。

注意

1. Execute Backup Utility:

- ✎ Bを押すとシステムをバックアップ、Esc で終了します。
バックアップユーティリティはシステムを自動的に検出、バックアップします。
バックアップデータは非表示イメージとして保存されます。

2. Execute Restore Utility:

- ✎ このプログラムはご使用のシステムを工場デフォルト設定に戻します。
Rを押してシステムを復帰します。
Esc で終了します
バックアップイメージを復帰して元の状態に戻します。

3. Remove Backup Image:

- ✎ バックアップイメージを削除しますか？(Y/N)
バックアップイメージを削除します。

4. Exit and Restart:

- 終了してコンピュータを再起動します。

日本語

[illegible]

第 5 章 付録

ドライバのインストール

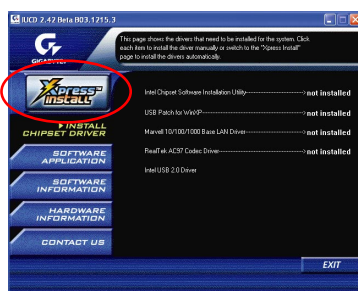


下図は、Windows XP で表示されています

お買い上げのマザーボードに付属のドライバ CD-タイトルを CD-ROM ドライブに入れると、ドライバ CD-タイトルはオートスタートし、インストールガイドが表示されます。表示されない場合は、“マイ コンピュータ”中の CD-ROM ドライブのアイコンをダブルクリックし、setup.exe を実行してください。

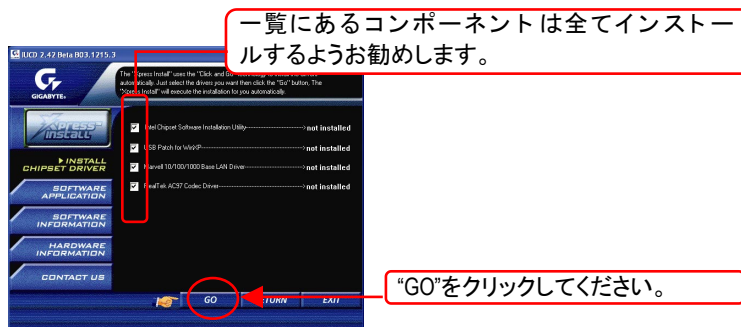
チップセットドライバのインストール

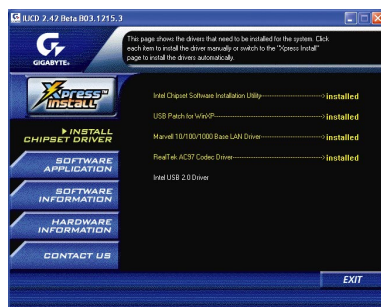
このページにはシステムにインストールが必要なドライバが表示されています。各アイテムをクリックしてドライバを手動インストールするか、 に切り替えてドライバを自動インストールします。



メモ：ドライバによってはシステムを自動的に再起動するものがあります。システム再起動後、“Xpress Install”は他のドライバのインストールを続行します。

“Xpress Install”は“Click and Go”テクノロジーにより、ドライバを自動インストールします。必要なドライバを選んで“GO”ボタンをクリックしてください。 が自動的にインストールを行います。





ドライバのインストールが完了しました！ システムを再起動する必要があります！

項目の説明

- Intel Chipset Software Installation Utility
オペレーティングシステムにチップセットコンポーネントの設定を行います。
- USB Patch for WinXP
このパッチドライバで、XP 上で S3 から USB デバイスウェイクアップを実行するとハングアップする問題を解決できます。
- Marvell 10/100/1000 Base LAN Driver (* ♦)
Marvell 10/100/1000 LAN チップ用。
- RealTek AC97 Codec Driver
Intel(R) ICH/ICH2/ICH4/ICH5/ICH5R AC97 オーディオ用。
- Intel USB 2.0 Driver
XP/2K の最新のドライバは Microsoft Windows 更新を使用することを推奨します。



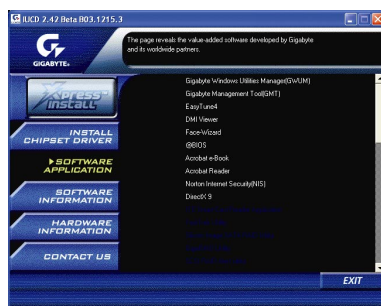
Windows XP オペレーティングシステム環境での USB2.0 ドライバサポートについては、Windows Service Pack をご使用ください。Windows Service Pack インストール後、“デバイスマネージャ”内の“ユニバーサルシリアルバスコントローラ”の欄には疑問符“?”が表示されます。疑問符を取り除きシステムを再起動してください(システムは正しい USB2.0 ドライバを自動検出します)。

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

(♦)GA-8IPE1000-G用のみ。

ソフトウェアのアプリケーション

このページには、Gigabyte および各国のパートナーから開発された付加価値のあるソフトウェアを紹介します。



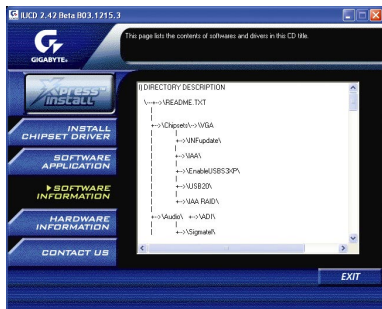
- Gigabyte Windows Utilities Manager (GWUM)
このユーティリティは Gigabyte アプリケーションをシステムトレイに統合します。
- Gigabyte Management Tool (GMT)
コンピュータをネットワーク経由で管理できる便利なツールです。
- EasyTune 4
オーバークロックとハードウェアモニタ機能を統合した強力なユーティリティです。
- DMI Viewer
システムの DMI/SMBIOS 情報を表示する Windows ベースのユーティリティです。
- Face-Wizard
BIOS ロゴを追加する新しいユーティリティです。
- @BIOS
Gigabyte Windows ベースの BIOS をフラッシュする ユーティリティです。
- Acrobat e-Book
Adobe からの便利なユーティリティです。
- Acrobat Reader
Adobe からの普及したユーティリティで、.PDF ファイル形式の文書を読み取ります。
- Norton Internet Security (NIS)
ウイルス防止、広告コントロールなどを含む統合ユーティリティ
- DirectX 9
Microsoft DirectX 9 のインストールで、3D ハードウェアアクセラレーションを可能にし、オペレーティングシステムの 3D パフォーマンスが改善されます。
- Marvell VCT Utility (*)
Marvell チップ用のユーティリティです。[Gigabit ネットワーク用 VCT (バーチャルケーブルテスター)テクノロジー]

(*)GA-8IPE1000 Pro-G 用のみ。

(*)GA-8IPE1000-G 用のみ。

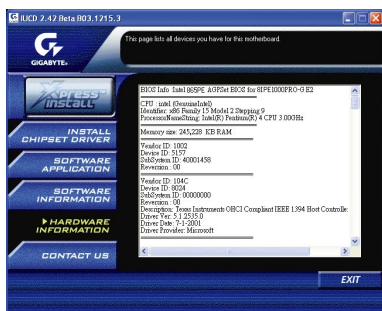
ソフトウェアの情報

このページには当 CD タイトルに収録されているソフトウェアおよびドライバの一覧が示されています。



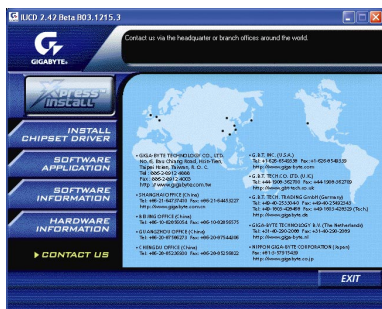
ハードウェアの情報

このページには当マザーボード用のデバイス全てが示されています。



当社への御連絡

詳細は最後のページをご覧ください。



FAQ

下記は一般に尋ねられる質問を集めています。特定のモデルのマザーボードに関する一般的な質問については、<http://tw.giga-byte.com/faq/faq.htm> にアクセスしてください。

問1: BIOS 更新後、以前の BIOS で表示されていたオプションのいくつかが表示されません。なぜですか？

答: 詳細オプションのいくつかは新たな BIOS バージョンでは非表示となっています。BIOS メニュー表示後、Ctrl と F1 キーを同時に押すと、これらのオプションが表示されます。

問2: コンピュータをオフにしてもキーボードや光学マウスのランプが消えないのはなぜですか？

答: ボードによっては、コンピュータをシャットダウンしてもスタンバイ用の微小電流が存在しますので、ランプがついた状態になります。

問3: EasyTune™ 4の機能を全部は使えないのはなぜですか？

答: EasyTune™ 4 の機能一覧にあるものが使えるかどうかはマザーボードのチップセットに依存します。チップセットが EasyTune™ 4 のある機能をサポートしていない場合、その機能は自動ロックされて使用できません。

問4: 起動HDDをIDE3やIDE4に接続後、RAID対応マザーボードにWin 2000とXP環境のRAIDおよびATAドライバがインストールできません。なぜですか？

答: まず、ドライバインストールの前に CD-ROM 内の幾つかのファイルをフロッピーディスクにコピーする必要があります。さらにインストール手順もある程度異なっています。それで当社ウェブサイト内の RAID マニュアルに記述されているインストール手順をご参考になるようお勧めします。(ダウンロードは http://tw.giga-byte.com/support/user_pdf/raid_manual.pdf から可能です。)

問5: CMOSのクリア方法は？

答：ご使用のボードに CMOS クリア用ジャンパーがある場合は、マニュアル中の CMOS のクリア方法をご参照ください。お持ちのボードにそのようなジャンパーがない場合は、オンボードの電池を外してボード電圧を放電させることで CMOS がクリアできます。以下のステップをご参照ください：

ステップ：

1. 電源をオフにします。
2. マザーボードから電源コードを外します。
3. 電池を静かに外し、10 分ほど放置します(または電池ホルダーのプラス・マイナスピンを金属片で 1 分間ほどショートさせます)。
4. 電池を電池ホルダーに戻します。
5. マザーボードに電源コードをつなぎ、電源をオンにします。
6. Del を押して、BIOS に入り、Fail-Safe Defaults をロードします。
7. 設定を保存し、システムを再起動します。

問6: BIOS更新後、システムが不安定になっているようですが、なぜですか？

答：BIOSフラッシュ後はFail-Safe Defaults (またはBIOS Defaults)をロードするようにしてください。それでもシステムが安定しない場合は、CMOSをクリアして問題解決します。

問7: スピーカー音量を最大にしても小さな音しか出ないのはなぜですか？

答：ご使用のスピーカーがアンプ内蔵かどうかご確認ください。アンプ内蔵でない場合、電源/アンプ付きスピーカーに取り替えてお試しください。

問8：別のVGAカードを装備するので、オンボードVGAカードを無効にしたいのですが、どのようにしますか？

答：Gigabyte製マザーボードは装着された外付けVGAカードを自動検出するので、オンボードVGAカードをマニュアルでオフにする必要はありません。

問9: IDE 2が使用できないのはなぜですか？

答：ユーザーマニュアルを参照し、フロント USB パネル上の USB 過電流ピンに、マザーボードパッケージ付属以外のケーブルを接続していないかご確認ください。もしケーブルがマザーボード付属品以外のものなら、それを外し、このピンには付属品以外のケーブルを接続しないようにしてください。

問 10：システム起動後、コンピュータから断続的にビープ音が聞こえることがあります。このビープ音にはどんな意味がありますか？

答：下記のビープ音コードはコンピュータに生じている問題を判別するのに役立つでしょう。ただし、これらは参照用のみです。状況は実際のケースにより異なります。

→AMI BIOSビープコード

* システム起動に成功した場合はコンピュータは短くピツと鳴ります。

* ビープコード 8 以外は、通常起動不能となります。

ビープ音1回 リフレッシュエラー

ビープ音2回 パリティエラー

ビープ音3回 ベース64Kメモリエラー

ビープ音4回 タイマーエラー

ビープ音5回 プロセッサエラー

ビープ音6回 8042-ゲートA20エラー

ビープ音7回 プロセッサ割り込み除外エラー

ビープ音8回 ディスプレイメモリアード/ライトエラー

ビープ音9回 ROMチェックサムエラー

ビープ音10回 CMOSシャットダウンレジスタリード/ライトエラー

ビープ音 11 回 キャッシュメモリエラー

→AMI BIOSビープコード

短く1回：システム起動成功

短く2回：CMOS設定エラー

長く1回短く1回：DRAMまたはマザーボードエラー

長く1回短く2回：モニタまたはディスプレイカードエラー

長く1回短く3回：キーボードエラー

長く1回短く9回：BIOS ROMエラー

連続した長いビープ音：DRAMエラー

連続した短いビープ音：電源エラー

問11：SATA HDDからRAIDまたはATAモードで起動するようBIOSで設定する方法は？

答：以下のようにBIOSを設定します：

1. Advanced BIOS features --> SATA/RAID/SCSI boot order: "SATA"
2. Advanced BIOS features --> First boot device: "SCSI"
3. Integrated Peripherals --> Onboard H/W Serial ATA: "enable"

その後、SATA モードに関しては、Serial ATA function という項目から RAID モードでは"RAID"、通常の ATA モードでは"BASE"に設定します。

問12 : RAID機能対応のマザーボードで、IDE3, 4からRAIDまたはATAモードで起動するようBIOSで設定するにはどうしますか？

答: 以下のようにBIOSを設定します:

1. Advanced BIOS features --> (SATA)/RAID/SCSI boot order: "SATA"
2. Advanced BIOS features --> First boot device: "SCSI"
3. Integrated Peripherals --> Onboard H/W ATA/RAID: "enable"

その後、RAIDモードに関しては、RAID controller functionという項目からRAIDモードでは"RAID"、通常のATAモードでは"ATA"に設定します。

問13 : IDE/SCSI/RAIDカードから起動するようBIOSで設定するにはどうしますか？

答: 以下のように BIOS を設定します:

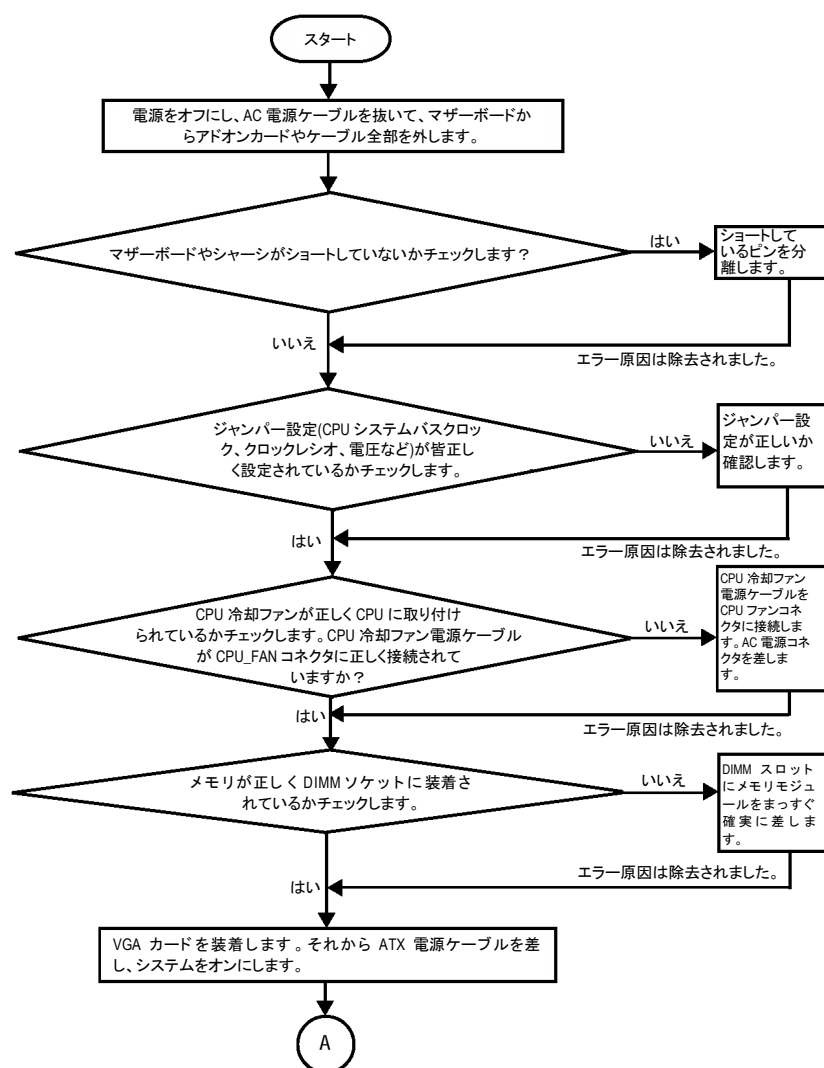
1. Advanced BIOS features --> (SATA)/RAID/SCSI boot order: "SCSI"
2. Advanced BIOS features --> First boot device: "SCSI"

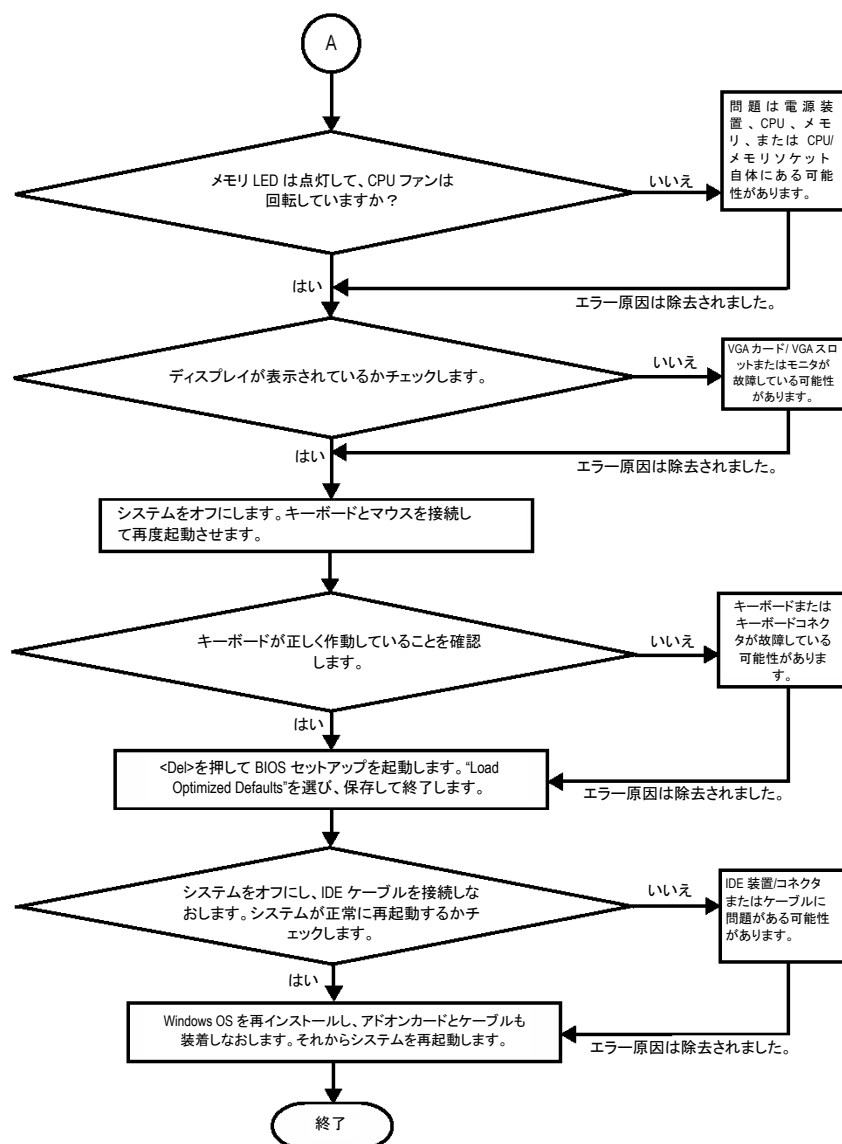
その後、RAID/ SCSI BIOS からモード(RAID または ATA)設定します。

トラブルシューティング



起動中にトラブルが生じた場合は、下記のトラブルシューティングの手順に従ってください。





上記手順で問題が解決しない場合は、最寄の販売店または国内の代理店に御連絡ください。または、Gigabyte ウェブサイトテクニカルサポートゾーン (<http://www.gigabyte.com.tw>)へのメールお問い合わせによりご質問ください。迅速に対応策をお知らせします。

テクニカルサポート/RMA シート

お客様/国:	会社:	電話番号:
連絡先:	E メールアドレス:	

モデル名/ロット番号:	PCB バージョン:
BIOS バージョン:	O.S./A.S.:

ハードウェア設定	Mfs.	モデル名	サイズ:	ドライバ/ユーティリティ:
CPU				
メモリーメーカー名				
ビデオカード				
サウンドカード				
HDD				
CD-ROM / DVD-ROM				
モデム				
ネットワーク				
AMR / CNR				
キーボード				
マウス				
電源装置				
その他デバイス				

トラブルの説明:

略語表

略語表	意味
ACPI	アドバンスドコンフィギュレーションおよびパワーインタフェース(Advanced Configuration and Power Interface)
APM	アドバンスドパワーマネジメント(Advanced Power Management)
AGP	アクセラレーテッドグラフィックスポート (Accelerated Graphics Port)
AMR	オーディオモデムライザー(Audio Modem Riser)
ACR	アドバンスドコミュニケーションライザー (Advanced Communications Riser)
BIOS	基本入出力システム(Basic Input / Output System)
CPU	中央処理装置(Central Processing Unit)
CMOS	相補型金属酸化半導体(Complementary Metal Oxide Semiconductor)
CRIMM	コンティニューイティールIMM(Continuity RIMM)
CNR	コミュニケーションおよびネットワークライザー (Communication and Networking Riser)
DMA	ダイレクトメモリアクセス(Direct Memory Access)
DMI	デスクトップマネジメントインタフェース (Desktop Management Interface)
DIMM	デュアルインラインメモリモジュール(Dual Inline Memory Module)
DRM	デュアルリテンション機構(Dual Retention Mechanism)
DRAM	ダイナミックランダムアクセスメモリ (Dynamic Random Access Memory)
DDR	ダブルデータレート(Double Data Rate)
ECP	拡張機能ポート(Extended Capabilities Port)
ESCD	拡張システム設定データ(Extended System Configuration Data)
ECC	エラーチェックと訂正(Error Checking and Correcting)
EMC	電磁氣的互換性(Electromagnetic Compatibility)
EPP	拡張パラレルポート(Enhanced Parallel Port)
ESD	静電放電(Electrostatic Discharge)
FDD	フロッピーディスクデバイス(Floppy Disk Device)
FSB	フロントサイドバス(Front Side Bus)
HDD	ハードディスクデバイス(Hard Disk Device)
IDE	インテグレートッドデュアルチャンネルエンハンスド (Integrated Dual Channel Enhanced)
IRQ	割り込み要求(Interrupt Request)

つづく.....

略語表	意味
IOAPIC	入出力アドバンスドプログラマブルインプットコントローラ (Input Output Advanced Programmable Input Controller)
ISA	工業規格アーキテクチャ(Industry Standard Architecture)
LAN	ローカルエリアネットワーク(Local Area Network)
I/O	入力/出力
LBA	論理ブロックアドレッシング(Logical Block Addressing)
LED	発光ダイオード(Light Emitting Diode)
MHz	メガヘルツ(Megahertz)
MIDI	ミュージカルインスツルメントデジタルインタフェース (Musical Instrument Digital Interface)
MTH	メモリトランスレーターハブ(Memory Translator Hub)
MPT	メモリプロトコルトランジスター(Memory Protocol Translator)
NIC	ネットワークインタフェースカード(Network Interface Card)
OS	オペレーティングシステム(Operating System)
OEM	受注メーカー(Original Equipment Manufacturer)
PAC	PCI A.G.P.コントローラ(PCI A.G.P. Controller) Controller
POST	電源投入時セルフテスト(Power-On Self Test)
PCI	ペリフェラルコンポーネントインターコネクト (Peripheral Component Interconnect)
RIMM	Rambusインラインメモリモジュール(Rambus in-line Memory Module)
SCI	特殊環境指示(Special Circumstance Instructions)
SECC	Single Edge Contact Cartridge
SRAM	スタティックランダムアクセスメモリ (Static Random Access Memory)

日本語

[illegible]

日本語

[illegible]

日本語

[illegible]

日本語

[illegible]

当社への御連絡

全世界の当社本支社へのお問い合わせはこのページをご参照下さい。

・台湾

Gigabyte Technology Co., Ltd.
所在地 : No.6, Bau Chiang Road, Hsin-Tien, Taipei
Hsien, Taiwan, R.O.C.
TEL: 886 (2) 8912-4888
FAX: 886 (2) 8912-4004
E-mail:

私どもは絶えず、より速くより有効なメール
応答サービスをご提供できるように懸命に努
力しています。

何かご質問があれば、以下のトピックスに分
類してお知らせください。

私どもの各部門はできるだけ早く問題を解決
しようします。皆様のご協力に感謝いたし
ます！

WEB Address: <http://tw.giga-byte.com>

・ USA

G.B.T. INC.
Address: 17358 Railroad St, City of Industry, CA 91748.
Tel: 1 (626) 854-9338
Fax: 1 (626) 854-9339
E-mail: sales@giga-byte.com
support@giga-byte.com
WEB Address: <http://us.giga-byte.com>

・ Germany

G.B.T. Technology Trading GmbH
Tel: 49-40-2533040
49-01803-428468 (Tech.)
Fax: 49-40-25492343 (Sales)
49-01803-428329 (Tech.)
E-mail: support@gigabyte.de
WEB Address: <http://de.giga-byte.com>

・ Japan

Nippon Giga-Byte Corporation
WEB Address: <http://www.gigabyte.co.jp>

・ U.K

G.B.T. TECH. CO. LTD.
Tel: 44-1908-362700
Fax: 44-1908-362709
E-mail: support@gbt-tech.co.uk
WEB Address: <http://uk.giga-byte.com>

・ The Netherlands

Giga-Byte Technology B.V.
Address: Verdunplein 8 5627 SZ, Eindhoven, The
Netherlands
Tel: +31 40 290 2088
NL Tech.Support : 0900-GIGABYTE (0900-44422983,
€0.2/M)
BE Tech.Support : 0900-84034 (€0.4/M)
Fax: +31 40 290 2089
E-mail: info@giga-byte.nl
Tech. Support E-mail: support@giga-byte.nl
WEB Address: <http://nl.giga-byte.com>

・ China

Shanghai Office
Tel: 86-21-64737410
Fax: 86-21-64453227
WEB Address: <http://cn.giga-byte.com>
GuangZhou Office
Tel: 86-20-87586273
Fax: 86-20-87544306
WEB Address: <http://cn.giga-byte.com>
Beijing Office
Tel: 86-10-82856054
86-10-82856064
86-10-82856094
Fax: 86-10-82856575
E-mail: bjsupport@gigabyte.com.cn
WEB Address: <http://cn.giga-byte.com>
Chengdu Office
Tel: 86-28-85236930
Fax: 86-28-85256822
WEB Address: <http://cn.giga-byte.com>